

徳山高専だより

Tokuyama College of Technology

2009年度 No.63



徳山工業高等専門学校

目次

ホームページTop Newsで綴る徳山高専この1年……	1
特集：	
徳山高専同窓会“高城会”……	6
バドミントン女子ダブルス2連覇達成!!	
～全国高専体育大会バドミントン～……	13
みんなで全国制覇!!	
～全国高専体育大会バレーボール～……	14
就職・進学状況 / 就職・進学試験体験記	
本科……	16
専攻科……	22
卒業生だより……	25
退職者あいさつ……	28
新任者紹介……	29
徳山高専きらめきコンテスト……	36
図書館時間外開館補助員の感想……	40
編集後記	

※注（本文記事中略称）

ME＝機械電気工学科 IE＝情報電子工学科 CA＝土木建築工学科

徳山高専この1年

全国高専英語プレゼンテーションコンテスト3位入賞 2009年1月24日～25日



国立オリンピック記念青少年総合センターで開催された第2回全国高専英語プレゼンテーションコンテストに、本校から土木建築工学科2年の波多野さやかさん（スピーチ部門）、環境建設工学専攻2年の森下瑠理子さん、土木建築工学科5年の吉永晴香さん、土木建築工学科4年の濱崎翔平君（以上3名はプレゼンテーション部門：3人一組でパワーポイントなどを用い、英語でプレゼンテーションを行う）が出演しました。全員がすばらしいパフォーマンスをし、その結果、プレゼンテーション部門で3位に入賞することができました。帰国子女がたくさん出場する大変レベルの高いコンテストでしたが、努力を積み重ねたおかげですばらしい成果をあげることができました。

駅ビルで創造演習発表会 人気投票と学外審査員による作品評価は如何に！

2009年1月27日



土木建築工学科3年生がまちなかで創造演習の作品展示と成果発表会を行いました。これは、現代GP「まちなかサテライトを活用した創造教育」として行っている授業です。今年は「わたしのまち発見！」をテーマに、周南市中心市街地の再評価、価値づくりに挑戦。15チームが現地調査の結果から徳山の街を楽しむための絵地図を製作、まちなかに展示して人気投票を実施しました。発表会での学外審査員による評価、人気投票の結果はテストでは得られない多角的なものの見方を与えてくれたようです。

平成20年度徳山高専産学交流会を開催

2009年2月6日



平成20年度徳山高専産学交流会が、市内のホテルで開催されました。本会は、徳山高専及び大島高専の各分野のシーズを発表することにより、企業ニーズとのマッチングを図ることを目的とした交流会です。民間企業及び高専関係者合わせて約100名の参加があり、徳山高専から5件、大島高専から2件のシーズ発表が行われ、休憩時間には40枚のシーズパネルの前に教員が立ち、研究内容を熱心に説明しました。

「JAPANプロジェクト国際賞 学生審査委員賞」の学生審査委員に選出、授賞式出席

2009年3月9日



JAPANプロジェクト国際賞とは、国内企業が携わった海外プロジェクト成果を国土交通省が募集し、優れたプロジェクトを表彰するものです。本賞には、学生審査委員の評価による「JAPANプロジェクト国際賞 学生審査委員賞」が設けられています。学生審査委員は公募され、応募動機および海外プロジェクトに関する自由課題の作文による審査の結果、土木建築工学科5年の高橋宏太君と大学院生2名の計3名の学生が選ばれました。3人により選出されたプロジェクトは、3月9日に東京のホテルで開催されたJAPANプロジェクト国際賞授賞式で表彰されました。高橋君も学生審査委員として授賞式に出席しました。

徳山高専を巣立つ140名の皆さん「卒業おめでとう」

2009年3月14日



本校第2体育館で第31回卒業式及び第13回専攻科修了式が厳粛に執り行われました。マレーシア、スリランカ、モンゴルからの留学生を含む123名に卒業証書が、専攻科修了生17名に修了証書とJABEE「設計情報工学」プログラム修了証が、校長から一人ひとりに授与されました。式終了後の祝賀会では、天野前校長や先生方を囲んで記念撮影などで和やかなひとときを過ごしました。今後、皆さんの夢に挑戦され、社会に貢献されることを期待します。

入学おめでとう 第36回入学式および第15回専攻科入学式

2009年4月5日



桜が満開の4月5日、機械電気工学科41名、情報電子工学科42名、土木建築工学科40名、留学生2名、編入学生3名が本科入学生として、機械制御工学専攻10名、情報電子工学専攻10名、環境建設工学専攻22名が専攻科入学生として、合計170名の入学が許可されました。新入生の皆さん入学おめでとうございます。

仲間と高専生活のスタート 新入生合宿研修

2009年4月8日～9日



国立山口徳地青少年自然の家において、高専生活のオリエンテーション及び学生相互、教職員との交流を目的に新入生合宿研修が行われました。4、5年生の指導学生や校長、教職員と共に春の心地よい日差しの下でのオリエンティング、ゲーム企画として長縄飛び大会、野外炊飯などを協力して行いました。最終日には「僕の夢・私の夢」の作文が発表され、1年生が高専生活の第一歩を踏み出しました。

呉に集まった高専専攻科の仲間たち 専攻科生研究交流会

2009年4月24日～25日



呉高専において、平成21年度中国・四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会が開催されました。この交流会において、研究発表（口頭およびポスター）と情報交換会が行われました。研究発表では、これまでの研究成果を他高専の学生及び先生を前に発表し、活発な討議が行われました。情報交換会では、学生同士の交流を深めると共に、各高専の趣向をこらした紹介も行なわれ、盛況の内に終了しました。また、本校の紹介は情報電子工学専攻佐伯君が行い、他高専の学生に徳山高専の魅力を少しは伝えられたようでした。

「山口県の伝統文化を体感」情報電子工学科3年萩合宿研修

2009年4月30日～5月1日



山口県萩青年の家において、情報電子工学科の3年生が合宿研修を行いました。これは、高専生活5年間のちょうど中間点であり、また混合クラスから学科別クラスへと変わる3年生において自らの今後の目標を再確認するとともに、クラスメートとの交流を深めることを目的に毎年実施されています。研修では、1日目の午後に萩歴史探訪、夜には体育館でドッジボールやバスケットボールを行いクラスメートとの交流を深めることが出来ました。また2日目には萩焼を体験し、山口県の伝統文化に親しむことが出来ました。

徳山高専流クラスマッチ がんばりました!!

2009年5月13日



初夏を思わせる好天に恵まれた5月13日、学生会主催の新生歓迎クラスマッチが行われました。学生会長挨拶は応援、実習服を着てエンジニア精神にのった選手宣誓、大仏様のマスクをかぶってラジオ体操とスタートから学生のアイデアがいっぱいです。リレーでは情報電子工学科5年生が秘密戦隊ゴレンジャーに扮してバトンをつないで完走した後、クラス全員が参加する綱引きでも活躍しました。目指したのは競技に勝つこと?楽しむこと?

「技術者としての心構えを伝授」(株)トクヤマ白神所長が専攻科で講義

2009年5月19日



専攻科の「産業論」で(株)トクヤマ白神誠一徳山製造所長に講義をしていただきました。「産業論」は、豊富な経験をもつ実務経験者から技術者、企業人としてどう生きるべきかなどについて学ぶために開講されています。白神所長は、(株)トクヤマ入社以来、技術者としてご自身が経験した技術開発の歴史を通じ、本校の専攻科生に、技術者に求められることとはなにかを話されました。また講義の中では、ご自身が最も興味があるという生物の話や歴史の話もされ、とても濃い内容の講義でした。

専攻科1年生 島津市長訪問

2009年6月10日



専攻科1年生(環境建設工学専攻)の4名(石田君、岡内君、高橋君、安澤さん)が島津周南市長を訪問しました。前期教養科目講師の平原先生(西京総研)がセッティングしてくださったものです。約30分間の訪問でしたが、今後のまちづくりは実際に居住しているやる気のある市民が考えるべきであるという市長の考えをじかに聞くチャンスを得ました。ぜひ若い学生の意見を今後も聞かせてほしいということで、学生の皆さんも積極的に街づくりへ参加してほしいと依頼を受けました。

「いんぐりっしゅ☆る~む」がついに200回目!!

2009年6月19日



徳山高専夢広場で毎週金曜日に開催している「いんぐりっしゅ☆る~む」が、200回目を迎えました。英会話を通して交流の輪を広げる目的で2004年2月16日に始まったこの活動も、学生、教職員、市民の方々に支えられ、ここまで続けることができました。記念すべき今回は、島津周南市長、平野校長も参加してくださり、お祝いのスピーチを英語でいただきました。特別注文した大きなケーキを約70人の参加者でシェアし、ジョークショーやマジックショーなど、盛りだくさんの出し物を参加者みんなで楽しみました。

第2回中国地区高専テクノ・マーケット開催

2009年6月30日~7月1日



鳥取市のとりぎん文化会館において、第2回中国地区高専テクノ・マーケットが開催されました。これは、戦略的に「地域イノベーションの創出」を図る活動の一環として、徳山高専を世話校として中国地区8高専が合同で開催したものです。昨年度の広島に続いて2回目の開催となった今回は、「地域イノベーション創出2009 in とっとり」と同時開催で行われました。プレゼンテーションによる研究シーズ発表の他、約200枚の研究シーズポスターが展示され、産学官各界からの多くの参加者と交流を行いました。

第45回中国地区高専体育大会開催

2009年7月4日～5日



徳山、宇部、松江を会場に第45回中国地区高等専門学校体育大会が開催され、徳山会場では、バレーボール、卓球、硬式テニス、剣道の4種目の競技で熱戦が繰り広げられました。本校の選手は各競技で奮闘し、8月18日～28日の間、都城高専を主管校として九州・沖縄地区で行われた全国大会に、団体戦ではバレーボール、サッカー、個人戦では陸上競技をはじめ7種目26名の学生が出場しました。

平成21年度第1回校内見学会開催

2009年7月18日



校内見学会（第1回）が7月に開催されました。県内外から中学生、保護者等合わせて約500名の来校者があり、大盛況となりました。各学科とも体験コーナーを設けるなど、それぞれの特色を生かした企画が行われ、校内のいたるところで歓声が響き、楽しんでもらうことができましたようです。校内見学会（第2回）は11月14日に開催されました。

周南ロボコン2009「ロボット製作教室」開催

2009年8月8日



本校テクノ・リフレッシュ教育センターにおいて、周南ロボコン2009「ロボット製作教室」を開催しました。周南ロボコンへの出場を目指す小中学生31名が、本校学生の指導を受けながら初めてののはんだ付けなどを行い、夢中になってオリジナルロボットを製作しました。毎年恒例となった市民参加型ロボットコンテストも6回目を迎え、今年から周南市との共催となり、10月31日に本校体育館で熱戦が繰り広げられました。

ものづくり教育プランフォーラム開催

2009年9月18日



平成21年度「産学連携による実践型人材育成事業」複合技術導入により知識を知恵に変えるものづくり教育プランフォーラムが開催されました。専攻科1年生は6月から8月にかけて行った長期インターンシップの報告を行いました。ものづくりの現場で学んだことを口頭発表やポスターで報告しました。また、専攻科2年生は本事業による総合実験・演習の成果を発表しました。最後に講師によるパネルディスカッションが行われました。

全国高専プログラミングコンテスト出場

2009年10月17日～18日



全国高等専門学校第20回プログラミングコンテストが千葉県木更津市の、かずさアカデミアホールで開催されました。今年の課題部門のテーマは「ゆとりを生み出すコンピュータ」で、競技部門は「何色？ サツと見発見伝」という競技でした。徳山高専からは課題部門に「本並兵衛（ほんならべえ）—ほんならおまかせ—」という本棚を管理するシステム、競技部門に「竜巻旋風脚さとみ」というシステムが参加しました。健闘しましたが、課題部門は敢闘賞、競技部門が準決勝で敗退という結果でした。

高専ロボコン2009 中国地区大会開催

2009年10月18日



全国高専ロボコン2009中国地区大会を、本校が主管校として、キリンビバレッジ周南総合スポーツセンターで開催しました。地区8高専から各校2チーム、計16チームが参加して熱戦を繰り広げました。本校からは、戦国時代の大名達の争いをモチーフとしたAチーム「毛利君」が初戦敗退、徳山動物園の人気者マレーグマのツヨシ君をモチーフとしたBチーム「はちみつが好き」が絶妙なバランスとユニークな動きで愛嬌を振りまきましたが、2回戦敗退で惜しくもベスト4進出を逃しました。招待された小学生を含む1,200人の観覧者から惜しめない拍手が送られました。

第35回高専祭 テーマはMaximize！

2009年10月31日～11月1日



10月31日・11月1日の2日間、徳山高専祭が開催されました。今年のメイン企画は木製のちょっと懐かしい横丁です。門をくぐると、江戸時代？ヘタイムスリップ！隣のステージでは来場者に楽しんでもらおうと企画が盛りだくさんでした。また迫力のライブ、アイデアを搭載したロボットで小学生から社会人までが挑戦した周南ロボコン2009も熱戦でした。フィナーレは恒例のファッションショーと高専の空に打ち上げられた花火。MaximizeすればMaxを超えられる！2日間高専は学生のエネルギーであふれていました。

本校初の快挙！両部門で優勝!! 中国高専英語弁論大会

2009年11月13日～14日



呉市で行われた第25回中国地区高専英語弁論大会に土木建築工学科3年の波多野さやかさんと機械電気工学科1年の茂山丈太郎君が出演し、波多野さんが暗唱の部で、茂山君がスピーチの部で優勝という素晴らしい結果を残すことができました。聴衆が完全に魅了されるほど、2人のパフォーマンスは完璧でした。波多野さんは昨年度のスピーチ部門での優勝に続き、連続優勝でした。茂山君は1月に東京で開かれる全国高専英語プレゼンテーションコンテストに出場しました。

卒業生によるキャリア体験談（キャリア教育支援プログラム）

2009年12月5日



12月5日に「卒業生によるキャリア体験談」が開かれました。会場のメディアホールは、100名近くの学生でほぼ満席。現在企業や官庁で活躍中の7名の卒業生（うち女性3名）が語る、キャリア形成の過程とアドバイスに熱心に耳を傾けていました。本プログラムは4年生と専攻科1年生対象ですが、来年の姿を見据えた3年生の姿もありました。体験談後に開かれた懇談会にも多くの学生が参加し、会場の学生談話室は熱気にあふれていました。後輩たちに現在携わっている仕事について生き生きと語り、的確なアドバイスをしている卒業生の姿に、頼もしさを感じました。

全国高専プログラミングコンテスト出場作品 雑誌掲載

2009年12月



雑誌「日経ソフトウェア」2010年1月号に、全国高等専門学校第20回プログラミングコンテスト（10月17日～18日開催）に出場した徳山高専の「本並兵衛（ほんならべえ）—ほんならおまかせ—」が写真入りで紹介されました。このプログラムは、バーコードリーダー、複数のWebサイト情報の活用機能、カメラを利用した本のサイズ測定装置などを組み合わせて、新刊書の推薦機能も備えた本格的な本棚整理支援システムを実現しており、実際に使える、使いたいと思わせる作品と好評でした。

高専だより同窓会特集

徳山高専同窓会 “高城会” 30周年を迎える

徳山高専の卒業生（在生も準会員）で組織している徳山高専同窓会 “高城会” は、本校が昭和54年（1979年）に第1期の卒業生を出した時に結成され、昨年（2009年）で30周年を迎えました。会員は、（準会員及び留学生を含めて）4,221名を数え、地元から国外まで幅広く活躍しています。ここでは、この高城会の30周年記念事業と近況について報告いたします。

会長挨拶 高城会30年の節目を迎えて



高城会 会長 高橋 一登 (ME03)

早春の候、皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、高城会（徳山高専同窓会）は昨年、創立30周年を迎えました。この節目に、今回の特集を企画頂いたことに、深く感謝の意を表するものです。

本会の会員数は、現在4,200名に達し、多くの卒業生が、激しい環境変化の中で、苦勞・努力を重ねつつ、社会の中核を担う年代に達して来ています。高城会30周年の節目として、今後成すべきことは、卒業生が蓄積しつつある「実践的な技術力・人間力」という無形の価値を集約し、母校の更なる発展に寄与する為に、或いは卒業生同士の有機的な繋がりを確保する為に、強い同窓会ネットワークを構築することであると考えています。現在、執行委員の皆さんにてホームページや各地への支部の開設に向けての準備作業を進めて頂いており、今後の展開を楽しみにすると共に、活用に向けた会員諸氏の御支援・御協力をお願いするものです。

優れた人格と技術力を併せ持つ高城会会員の益々の活躍と協働で、より多くの社会貢献を果たし、徳山高専が名門として更に飛翔することを願っています。母校、徳山高専と高城会会員の皆様のますますのご発展とご活躍を祈ります。

徳山高専同窓会高城会30周年記念事業

高城会の発足30周年を記念して、①大懇親会の開催、②母校への記念品の贈呈、③記念誌の発行が行われました。

■大懇親会の開催

平成21年の5月1日、ホテルサンルート徳山で総会並びに大懇親会が行われました。参加者は、第1期卒業生から本校の教職員OBまで、当日の飛び込み参加も加えて250人を越え、30周年を記念して母校に記念品（乗用車）を寄贈するイベントも行われました。

懇親会は、司会から池田仁徳山高専名誉教授（79歳）が、直前の4月29日に春の叙勲で瑞宝小綬章を授賞された報告に始まり、高橋一登同窓会長の挨拶（写真1）、母校への記念品（乗用車：エステイマ）の贈呈（写真2）、そして、吉崎雅弘（CA01）前会長の音頭による乾杯（写真3）へとプログラムを進めました。すでに、この段階でも大いに盛り上がっていましたが、その後、恩師（上野五郎先生、小田宮章夫先生、小松英生先生、武平信夫先生）によるスピーチを皮切りに、正会員（萩原茂信君（ME01）、大塚亮君（IE01）、佐賀典子君（CA01）、原井哲夫君（ME01）、三牧幸博君（ME03）、野村勝則君（ME03）、檜智子君（IE09）、佃宣和君（ME11）、山本謙介君（CA18）、浅田真衣子君（IE18）、西村明希君（ME22）、深江忍君（CA25）、他）、そして、本校教員（原田幸雄先生、森野数博先生、江口賢和先生、橋本堅一先生）の近況報告に、会は大いに盛り上がり過ぎて行きました。予定していた2時間はあっという間に過ぎて行き、執行部を代表して杉村第2代同窓会長の挨拶、校歌斉唱、そして、池田教務主事と住田謙治君（IE09）の音頭による万歳三唱で閉会しました。参加者からは、本当に良い時間だったと笑顔の絶えない中での散会でした。

※注 学科の後の数字＝期

ここでは、30周年記念懇親会の代表的な写真を掲載していますが、以下の公開ページで、執行部が撮影した291枚の写真を確認することができます。なお、アクセス制限が設けてありますので、ユーザー名は、「takajo-kai」、パスワードは、「takajo30」で入ってください。

<http://www.tokuyama.ac.jp/japanese/alumni/30photo/>

担当：田村隆弘 (CA01)



写真4 歓談の様子1



写真9 森野数博先生のスピーチ



写真5 上野五郎先生のスピーチ



写真10 歓談の様子4



写真1 高橋一登会長 (ME03) の開会の挨拶



写真6 歓談の様子2



写真11 若手会員と上野先生が舞台上で校歌斉唱



写真2 母校へエスティマの贈呈



写真7 藤井一之君 (ME02) と木原薫君 (CA23) の余興



写真12 池田信彦先生と住田謙治 (IE09) 君の音頭で万歳三唱



写真3 乾杯&記念写真



写真8 歓談の様子3



写真13 万歳三唱

■プリウスの贈呈

高城会から母校へエスティマ贈呈



写真 母校へエスティマの贈呈

高城会の発足30周年を記念して母校へエスティマハイブリッドを贈呈しました（写真）。

これは、学生の皆さんの教育・研究や徳山高専の学校運営に役立てていただこうと、5月1日の高城会30周年記念総会において贈呈が決定されたもので、6月12日に贈呈式が行われました。

これまで徳山高専には8人が乗れる公用車がなく、学校行事やクラブ活動などで車が必要なときはレンタカーを利用しなければいけませんでした。エスティマが使用できるようになり、教職員や学生の皆さんには非常に喜んでいただいているようです。

贈呈から半年が経ちましたが、週末に車庫に入ったエスティマを見ることはほとんどありません。有効に活用されている様子を見て、高城会執行部として非常にうれしく思っています。

担当：西村太志（ME06）

■30周年記念誌の発行

30周年記念事業の1つとして、記念誌の発行をします。退官された先生方からは、職を退いても尚、その道で研鑽を積み重ねられておられるご様子や、在学中には聞けなかったお話が、また、同窓生の皆さんの近況や在学時代の思い出話等々多くの感動的な原稿をお寄せいただきました。多忙中にも関わらず、原稿執筆をいただきました皆様にこの場をお借りして、心からお礼申し上げます。

担当：渡辺勝利（CA04）

高城会東京支部が出来ました



平山則幸（CA05）

昨年、11月23日「高城会東京支部」が結成されました。昭和54年、初めて徳山高専卒業生を送り出し、既に30年もの歳月が流れました。その間、延べ約3,500人ももの学生が社会で活躍していることに歴史を感じているところです。

皆様方は、各地域、各分野で活躍されていることと思いますが、母校への思いは変わらずとも、繋がりを継続していくことは難しいことでしょう。

そこで、東京地区にお住まいの方を中心に東京支部を結成することになりました。後輩たちのスポーツ、文化活動を応援し、更には情報交換の場を設け交流を深めていきたいと考えています。

私は、株式会社トクヤマに勤務しており、同窓会会長を始め、約70名の徳山高専出身者の一人です。現在は東京支店（港区西新橋）で働いています。また、CA1期生 末光喜治さん、CA2期生 榎田久信さん、CA5期生 長沼徳司さん、CA14期生 柳原勝也さん、CA23期生 西本貴夫さんも同じ事務所です。

近々には、先生方の協力を得て、メンバーを募り、情報発信、具体的な支部活動の計画、実行を進めていく予定です。まずは、名簿作成。ご賛同頂ける方々、一度ご連絡下さい。

皆様方のご協力を宜しくお願い致します。

連絡先 会社03-3597-5130（株式会社トクヤマ）

E-mail：n-hirayama@tokuyama.co.jp

県庁高城会について

山口県土木建築部 砂防課 砂防保全班
技師 貞光里枝子（CA23）

県庁高城会は、最初に県庁に入られた若林さん（CA02）ら数人の有志により、平成4年に初の女性技術者として入られた古賀さん（CA14）の歓迎会が始まりのようです。以来、毎年1名以上が新規採用職員として山口県庁に入庁し、現在では総勢64

名の大所帯になりました。

例年11月に山口市内で総会（宴会?）を開催し、毎年30名程度の参加があります。また最近では、天野前校長ほか多くの先生にご来賓として参加いただき、昨年11月13日に開催された会では、平野校長、原先生、高山先生の3名にご参加いただきました。メンバーの多くはCA出身者で、県庁を始め県の出先機関で働いています。また、IE、ME出身者は、産業技術センターでの勤務が多いですが、電気職などで入られた方もいます。これまでは、全て技術職での採用でしたが、昨年、行政職として初めて吉田さん（CA25）が採用されています。山口県庁では、これからもいろいろなところで徳山高専卒業生が活躍していくと思います。温かい目で見守って下さいね。



写真 山口県高城会の懇親会（2009.11.13）

OBからのメッセージ

在学されている皆様へ



内山信治（ME24）

徳山高専を卒業して大学・大学院を経て、現在の会社（株式会社トクヤマ）に入社いたしました。現在は機械技術者として化学プラントの設計や建設を行っています。未熟な私ですが、これまでに私が大切にしなければならなかったことを5つにまとめました。在学されている皆様へほんの少しでも参考にしていただけると幸いです。

【主体性を持って何にでも挑戦する心】

「学校での勉強だけでなく様々なことに挑戦して、多くのことを体験し学習することが重要である」と

多くの本に書いてあります。その通りなのですが、皆さんは、「自分自身の行動に主体性があるかどうか」を考えられたことはありますか？主体性を簡単に言うと、自分で決めて、自分で行動して、自分で責任を持ってやり遂げることだと思います。主体性が無く、人に言われた通りに行動したのでは失敗しても成功しても、得るものは少ないと思います。

【多様な価値観を持つこと】

仕事はもちろん、全てにおいて一人ができる範囲は限られています。特に、仕事では価値観（立場や考え方）が全く異なる人たちと一緒に行動しなければなりません。ここで大切なのが、相手の立場に立って考え、行動することができるかどうかだと思います。相手の立場に立って、真剣に考えて、気持ちを通い合わせる。そのための練習として、自らの学校・地域・同じ世代の人に限らず様々な人々とのコミュニケーションをとってみてはどうでしょうか。自らの価値観を広げることができると思います。

【自分自身に対して自信を持つこと】

自分自身に自信がある人は余りいないと思います。いたとしても独り善がりのワガママ男・女です（実は、私もその一人なのですが…）。私は本当の自信とは、自分自身の考えに基づいて、行動し、行動によって得られた結果から得られるものだと最近になって気づきました。自らの考えで自らが行動し、学んだことを糧として自信を付け、その自信を自らの動力にして前に進んでいければいいんだと思っています。

【将来を見据えること】

将来、自分がどうなっているかを妄想してみることから始めてはいかがでしょうか。将来の自分に何か足りないと感じるものがあるならば、足りない何かを埋めるために今行動できると思います。

【期限を決めること】

最近、私は仕事と旅行には共通点があると感じています。無計画で旅行した場合、いつの間にか日が暮れて、目的地に達することができなくなり、次の日の予定も狂ってしまいます。仕事ならば今の仕事も終わらないし、次の仕事にも差し障り、多くの人に迷惑をかけてしまいます。学生時代は、自分の好きな時に行動すればよかったのですが、社会ではそれでは通用しないことを痛感しています。時間管理能力を高め、何事に対しても期限を付けて行動していくことが重要だと感じています。

親子で徳山高専 Part 1

平山則幸 (CA05)

専門技術者を目指し、他校からは羨望的となっていた自由な校風と男臭さに憧れ、昭和53年に入学しました。当年は、ようやく最初の5年生が誕生し、就職の実績が無い状況で学生と教職員の方々とが一体となり就職活動に東奔西走されていたように思います。私達の5年間は若干の出入りは有りましたが、すばらしい仲間恵まれ、経験豊富な先生方の指導を受け、充実した試験設備に振り回され、泣きと笑いを繰り返し着実に成長することができました。卒業後27年経過しましたが、今でも忘れることのできない出席番号、秋本、上村、浦中、遠藤、岡村、川浪、杳野、国広、黒岩、坂本、重本、須崎、武居、多田、田中、田中、田中、地代、津田、長沼、西田、原田、久次、平山、福永、藤井、藤本、牧野、村岡、村田、八崎、山下、山田。いい仲間でした。加えて、親子2代でお世話になり大変感謝しております。



平山景子 (CA30)

高専を受験することを決めた理由は、父から高専の話聞いて自由な校風と建築の勉強に興味を持ったからです。共に勉強した同級生とは現在でも頻繁に連絡を取り合い、帰省時には必ず皆で集まっています。5年間過ごすことで、お互いのことをよく理解できる、本当に素敵な友達に出会うことができました。高専ならではの経験や勉強をしてきたことを振り返って、高専を選んで良かったと心から思います。

現在、私は東京で単身赴任中の父と暮らしながら、建築の設計の仕事をしています。この仕事は高専で学んだことが役に立っていますが、まだまだ知識が足りなく、学生時代にたくさん勉強しておくべきだったと思うことがあります。私の現在の目標は、一級建築士の資格を取得することです。社会に出て勉強をして、仕事に役立て、建築についてもっと学んでいきたいと思っています。

親子で徳山高専 Part 2

福田英二 (CA01)

2009年12月で51歳になった私だが、早いもので2010年3月には息子も卒業を迎える。1期で卒業した私が息子のおかげで、もう1回卒業式を迎える気分である。

私が在学していた時からおられる先生方が、私の息子にも教え、この5年の間にご退職され、私が卒業研究の時にお世話になった重松先生に代わっては、息子が2年生の時に担任になられ親子2代でお世話になった。



先日、息子の同級生が何人か泊まりこみで遊びに来た。専攻科に行く者、就職する者、進学する者とさまざまだったが、何年、何十年先にはこの子らも私と同じように学校に縁を持つ機会が巡ってくるんだろうなと思った。

寮に入っている息子にとって最後の寮務主事が私と同級生であった田村先生というのも1つの縁であろうし…。

次回、「親子3代で高専生」につづく…かな？

福田真之 (機械電気工学科5年)

私がこの徳山高専に入学しようと思った理由は2つあります。一つめは父が高専生だったせい、小さい頃から毎年見ていた全国高専ロボコンです。小学生の時はただロボットが出ているだけとしか感じていませんでしたが、中学生になると、どのような機構で動いているのかと興味を持ち、自分も作ってみたいと思うようになりました。父と同じ土木建築工学科ではなく、機械電気工学科に入った理由はこれが原因です。



二つめの理由は、少し恥ずかしいですが父には負けたくないという子供心だと思っています。実際、出身は広島県の中学校なのでロボコンに出るだけなら呉高専や松江高専でもよかったはずなので、これも結構大きい理由だと思います (自覚はあまりありません)。

振り返ると徳山高専に来た理由は父の影響がほとんどですが、ロボコンでは全国にも行けたし、楽しい学校生活も送れたので、父の影響を受けて本当に良かったと感じています。

高城会の「ホームページ」が出来ました

高城会の30周年を記念して、この度、高城会のホームページを、開設することになりました。アドレスはこちらです (<http://www.takajokai.jp/>)。お時間のあるときにでもご覧ください。長年の懸案事項の1つであったこのホームページが開設された理由として、次に紹介します吉川美奈さんが高城会事務局の制作スタッフとして加わったこと、平成21年度高城会理事会でホームページについて具体的に議論したことなど、たくさんの人の思いが後押しとなり、立ち上げることが出来ました。おそらく皆様の周りにもインターネットが利用できる環境が身近にあると思いますので、これから、卒業生のコミュニケーションの場として、利用していただけたら幸いです。



高城会HPより <http://www.takajokai.jp/>

高城会ホームページは、同窓生のためのホームページです。支部での活動内容やクラス会や同窓会などの情報伝達のツールとしても利用できるようにしております。また、同窓生にはなかなか届きにくかった、高専大会などの案内や結果などを報告できればいいなと思っています（お近くの方は、是非応援に駆けつけてください）。ただし掲示板としては、通常とは異なり、不特定多数の書き込みを防ぐため、掲載して欲しい情報がありましたらこちらに送ってください。こちらの方で情報をアップさせて頂きたいと思います。

このホームページの一番の目的である、「同窓生

どうしをつなげる、同窓生と在校生をつなげる、同窓生と学校をつなげる。」ために、コミュニティの場を開設致しました。これは、会員同士をリレー形式でつなぐことを考えております。会長から始まり、順次紹介された人にバトンが渡ります。徳山高専の在校生も準会員なので、当然参加することが出来ますし、兄弟のみならず親子でリレーも面白いと考えております。また近い将来では、親子三代でのリレーもあるかもしれません。皆様のご協力が生命線のこの企画ですので、是非ご協力願います。また、「高専ヒストリー」と題して、写真を載せております。高城会が30周年ということは、徳山高専は35周年です。創成期の頃の写真などは懐かしさも手伝って、素敵なアルバムに仕上がっていると思いますので、是非ご覧ください。

最後に、これからどのようなページになっていくのか未知数な部分が多いのですが、卒業生の力を借りて素敵なページにしていきたいと考えております。皆様の情報（投稿）を心よりお待ちしております。

■ HP制作スタッフの紹介

IE14期生。周南市在住。銀行のシステム開発部に就職後、結婚を機に退職。IE卒という強みを活かし、地元の企業で単発的に仕事を継続。技術系の職業だからこそ、メンタル面のバランスが重要だと気づき、カラーセラピストの資格を取得し、「楽しく育児、楽しく仕事」をモットーにカウンセラー活動も展開中。



吉川美奈 (IE14)

<コメント>

この度、ご縁あって制作スタッフとして携わらせていただきました。卒業生として、「こんなものがあつたらいい」と思うものを形にしています。高城会ホームページは、これから同窓生の皆さんで作りに上げていくものです。年を追うごとに、深みのあるものにしていきたいと思っています。

担当：桑嶋啓治 (CA14)、海田辰将 (CA19)

高城会執行部紹介

2010年3月現在で、徳山高専には14名のOBが勤務しています。以下、簡単に自己紹介します。

田村隆弘 (CA01) 昭和49年に徳山高専に入学して以来36年間（途中2年間、長岡技術科学大学に出向しましたが）、母校のすねをかじっています。昭和54年から20年ほど第1期の同窓会長を務めさせていただきました。残りの人生も、母校や卒業生を応援し続けたいと思います。



奥本 幸 (IE01) 鳩山夫人のおかげで名前のおよみを間違われなくなりました。旧姓重永です。H19・20年と福井高専へ単身赴任しました。福井は、蕎麦とお豆腐が絶品。のおかげで体重が20歳の頃に戻りました。フットワークも心も軽くして、学生のためにがんばりたいと思います。



熊野 稔 (CA01) 昭和49年に徳山高専に入学して、豊橋技術科学大学を卒業し、母校に勤務して早51歳です。周南市建築審査会会長。山口県リサイクル商品等認定審査会会長。日本建築学会論文査読委員・同中国支部農村計画委員長。まちづくり研究協会会長を拝命しております。



渡辺勝利 (CA04) 去年は年男でした。次に年男を迎えるまでに、もうひと踏ん張りしなければと思っております。現在、同窓会30周年記念誌の編集作業を進めております。今年の5月には同窓生のみなさんのもとへお届けできると思います。



杉村敦彦 (IE05) 5期生で入学したので、在学中に1期から9期の方までと学生（寮生）として一緒に過ごし、4年間の大学生活を経て母校に帰ったときには10期の方が5年生でおられました。そのため1期の方から現在の学生まで全ての人にどこかでお会いしているはずです。



高山泰博 (IE05) 三菱電機の神奈川の職場に22年間勤務していましたが、縁あって平成21年8月から母校に勤務することとなりました。教員としては新米ですが、これから後輩たちの学校生活を支援していきたいと思います。



田村光子 (IE05) OB、OGの皆様、在校生の皆様、こんにちは。私も卒業して26年が経ちました。早いものですね。こちらに在籍して今年で10年目になります。同級生や、友達のお子様が入学してきて嬉しく思います。温かく見守っていただければと思います。宜しくお願いします。



西村太志 (ME06) 気がついたら、徳山高専を卒業して四半世紀が経とうとしています。今後も微力ながら徳山高専や高城会に貢献できればと思っています。卒業生の皆さん、在校生の皆さん、よろしくお願いたします。



重村哲至 (IE07) 平成元年に徳山高専に就職してから、本会では名簿の担当をしてきました。名簿のためのTeX マクロを作成したり、Webベースの名簿データベースを作ったりしましたが、データベースシステムが老朽化（既に13年経過）して、作りなおす暇がないのが悩みです。



桑嶋啓治 (CA14) 最近つくづく思うことは、卒業生の母校に対する想いがかなり大きいということです。また、卒業生同士も結びつきが強いと思います。これからも、卒業生と徳山高専との架け橋になれるように微力ながらお手伝いをしていきたいと思っています。



張間貴史 (ME15) 自分では最近卒業したと思っていたのですが、気がつくと卒業生の中でも前半組に入ってしまった。学生や卒業生のために、卒業生だからこそできることを少しずつでもやっていきたいと思っています。なお、ME15期では同窓会を毎年年末にやっています。



島袋 淳 (CA16) 卒業して16年、着任して12年が経過しようとしています。これからは執行部の皆様方の足手まといにならないように、母校、学生、卒業生のサポートを頑張っていきたいと思っています。



石川善丈 (ME19) 徳山高専には平成4年に入学して以来、働きだしてからずっと居座っております。高城会執行委員の中では一番下っ端ですが、フットワーク軽く頑張っていきます。みんなで高城会を盛り上げていきましょう！



海田辰将 (CA19) 平成21年8月より、土木建築工学科に着任致しました。今までに広島大学→高知高専→愛媛大学と異動してきましたが、徳山高専の卒業生で本当に良かったと思っています。後輩学生、母校、そして卒業生のサポートに全力で臨みたいと思います。



バドミントン女子ダブルス2連覇達成!!

第44回全国高等専門学校体育大会バドミントン競技

情報電子工学科2年 古城朋子

全国高専大会、2回目。今回も個人戦ダブルス、団体戦に出場した。惜しくも団体戦は3位。ダブルスは、優勝することができた。河村さんとの目標「五連覇」へ近づけた。

団体戦は、「このメンバーで優勝したい!」という思いがあったので、とても悔しかった。もう同じメンバーで戦うことはできないけれど、また来年、新しいメンバーで、この悔しさを晴らしたい。

2009年の夏、悔しさもうれしさもあったけど、何より私の記憶に残っているのは、高専大会へ向けての部活での練習風景。中国大会前は、みんなで声を出し合って、支え合った練習中の集中した真剣な顔が忘れられない。私も「みんなが頑張っているから自分も頑張ろう!」と思って必死に練習した。

全国大会前になると惜しくも全国大会に出場できなかった男子たちが女子の練習をサポートしてくれた。そんな練習の雰囲気を作ってくれて、いつも部員のことを気にかけてくれていたキャプテン、コーチには感謝の気持ちでいっぱい。団体3位、ダブルス1位、河村さんのシングルス1位という結果は、バドミントン部みんなで勝ち取ったものだと思う。

来年は、男女共に全国で戦って、男女共に良い結果を残したい。

土木建築工学科2年 河村美咲

今回の高専大会では、団体3位、ダブルス優勝、シングルス優勝という結果を残すことができました。団体は、5年生の先輩と共に出られる最後の試合だったので、「絶対に優勝しようね」と、みんなで言っていたけど、それを果たすことはできませんでした。とても悔しかったけど、みんなで団結して1人1人が一生懸命やったので、それだけで充分だと思います。

ダブルスでは、去年に引き続き、優勝することができました。ペアである古城さんは、何でも言えるし、いつも私を支えてくれます。高専に入って良いパートナーに出会えて、こうして一緒に頑張れることは、すごく幸せなことだと思います。一人では、こんなに頑張れていなかったと思います。これから

も二人で頑張って練習して五連覇を目指したいです。

そしてシングルスは、去年中国大会予選ですごく悔しい思いをしたので、今回優勝できて本当にうれしかったです。

このように良い思い出を作ることができたのも、いつも応援して支えてくれる方々のおかげだと思います。これからも感謝の気持ちを忘れず、一生懸命バドミントンをして行こうと思います!

顧問 柳澤秀明

平成21年度の全国大会は8月22日、23日に福岡県福岡市の九電記念体育館で行われ、徳山高専からは、女子団体戦【大村(IE5)、片山(CA4)、古城(IE2)、河村(CA2)、貞廣(IE2)、小濱(IE1)】、女子ダブルス古城・河村組、大村・片山組、女子シングルス河村、古城が出場しました。

女子ダブルス古城・河村組は去年優勝しているだけに、周囲からの期待も大きかったと思いますが、プレッシャーに負けることなく優勝し、連覇達成!!

また、女子シングルスでも優勝と、個人戦ではとても良い成績を残すことができましたが、残念ながら団体戦では3位と悔しい結果になってしまいました。

団体戦での悔しさをばねに、平成22年度の大会では個人戦と団体戦での優勝を目指して頑張ってもらいたいと思います。



みんなで全国制覇!!

第44回全国高等専門学校体育大会バレーボール競技



男子バレーボール部は、平成21年8月22日（土）～23日（日）、佐世保市体育文化館で行われた全国高専体育大会で、2年ぶり7回目の優勝をすることができました。

収穫その1 エースの成長

予選リーグで、「宮城高専と同じゾーンには入るな。」と監督に言われていたのに、キャプテンはみごとなくじを引き当てました。その後の準決勝は松江高専と。中国地区大会では勝ちましたが、うまい、手ごわい!!。

この2日間の試合は、ジェットコースターに乗るより刺激的でした。応援者は泣いたり、笑ったり、バレーを堪能しました。今回、全国優勝できた理由の一つは、キャプテンの辛抱強さです。ブロックが3枚ついても、アタックがふいても、ただ、ただ、辛抱して、スパイクを打っていました。実は、これまで、目にする事がなかった冷静さです。精神的にたくましくなった姿を見せてくれました。優勝し

たこともうれしかったですが、この成長を見られたことが、もっとうれしかったです。

収穫その2 種が大樹へ

バレー部OBが岡山や福岡、山口などからたくさん応援に来てくれました。東京在住の檜さんは、「審判をやらせてほしい。」と言って、中国地区大会にも駆けつけてくださいました。佐賀監督が30年間に捲かれた種は芽ぶき、大樹に育ってきています。

（顧問 奥本 幸）

（写真左から、広兼さんCA4期、拝田さんME10期、佐賀監督、藤井コーチME12期、檜さんIE 5期）



熱球を追って

情報電子工学科5年 黒宰拓也

昨年2連覇しようと北海道に乗り込みましたが、悔しい結果で終わってしまいました。そこで先輩たちと来年長崎で胴上げすると約束していたので、優勝して先輩たちや先生を胴上げしたときはホッとしました。試合内容は雑なものもありギリギリな試合が多かったですが、こういうときの練習もしてきたこともありあまり焦りはありませんでした。先生方、コーチ、その他いろんな方々の支えがあってこそその全国制覇だと思っています。ありがとうございました。



情報電子工学科5年 竹本優太

この五年間、バレーを通じて数え切れない程の繋がりができました。その繋がりの深さ、強さが全国優勝という結果につながったのだと僕は強く思っています。楽しいときもあれば、苦しいときもあります。しかしそこには、先輩、後輩、先生やコーチ、共通の目的をもったたくさんの仲間の存在がありました。思い返すと、自分がとても恵まれた環境にいたことを改めて感じますね。そのうえ有終の美を飾ることができ、ほんとに僕は幸せ者です。



土木建築工学科5年 磯村和樹

一年前に先輩達が引退してから、絶対に全国優勝すると誓っている練習に取り組んで来ました。レシーブ練習ではみんなぼろぼろになってボールを追いかけ、走りこみやトレーニングでは互いに声を掛け合いながら頑張りました。そんなこれまでの積み重ねがあったからこそ最後に優勝という最高の結果に終わることができたのだと思います。心を鬼にして指導してくれた先生やコーチ、忙しい中練習に来てくれた先輩方、共に支えあって頑

張った後輩、マネージャー、本当に感謝しています。ありがとうございました。

機械電気工学科5年 長沼臣弥

高専において、運動系部活動の顧問は神様じゃないとできないと言うのは有名な話です。一本チツリというお言葉は、我らが「佐賀監督」が私たちに下さった一生忘れることのできない名言です。今回で、監督としては七回目の全国制覇を成し遂げられた佐賀監督は、練習中も試合中もいつも熱心に指導してくださいました。そしてどうしようもない私たちを、良き方向へと導いてくださいました。これからも、佐賀監督と徳山高専バレーボール部は永久に不滅です。



土木建築工学科5年 木村未希

毎日一生懸命練習している部員を見ていると、もっとできることはないか、何をしたらチームの役に立てるか、マネージャー同士で話し合い、時には先生とも相談しながら、部活をしてきました。それだけに部員が何気なく言ってくれた感謝の言葉は、とても記憶に残っています。そして、全国優勝を勝ち取ってくれた瞬間は、本当に幸せなマネージャーだと思いました。

全国優勝後に撮った笑顔の写真は一生の宝物です。



私が選んだオレンジのシャツ、コーチは似合うと思ったけど、佐賀先生も似合ってた、よかった。

機械電気工学科

就職・進学状況 おじいさんのランプ



5年担任 機械電気工学科
教授 伊藤 尚

「100年に一度」、あるいは「未曾有（みぞゆう？という流行語まで生まれてしまいました）」の世界的経済危機といわれている昨今、高専卒業予定者の就職戦線がどのように推移するのか、進路指導担当者としては当初から不安で一杯でした。早期に活動を始めるのが不可欠とは考えていましたが、就職希望者のほとんどが4年生の終わり頃から企業説明会や会社訪問などを積極的にこなし、ほぼ例年と同様に、希望する企業に一発で内定でき、安堵しています。このことは、各種報道などによる大学生や高校生の進路決定状況とは大きく異なるようです。

その理由として、2つが考えられます。まずは、従来から引き合いの多かった機械・電気関連企業の、高専生に対する大きな期待があげられます。さすがに自動車や半導体、精密機器などの不況分野では求人数が激減しましたが、その他の企業においては、特に電力やガスなどのエネルギーインフラ関連、電機メーカーの生産・品質管理業務などにおいて、例年以上に熱心な引き合いがあったように思います。次に、不況ゆえ、学生自身が将来の社会動向を真剣に考えた結果の企業選びがあったように思います。例えば、今後の環境ビジネスの重要性について真剣に考え、どうしても太陽電池産業分野に就職したい等の強い意志を曲げずに就職活動を展開したことが成功につながった例もあります。授業の一環として行われたホンダソルテックの数佐社長の特別講演によれば、ホンダがF1を撤退し、燃料電池や太陽電池、バイオテクなどの環境エネルギー分野に挑戦する姿は産業構造の大きな変化を実感させます。半世紀以上にわたり、本田宗一郎というガソリンエンジンの神様のような創業者に導かれてきた自動車企業が今、エンジンから急速に遠ざかる姿は、新美南吉の童話「おじいさんのランプ」を思い起こさせます。

皆さんもご存じの通り、この古い物語は、日本に電灯が普及していった頃、ランプ販売を生業にしていたおじいさんが最初は電気を商売敵と思って憎んでいたけれども、最終的には自身の職業へ決別したことを振り返るものであり、私達は時代の移り変わりに敏感に対応しなくてはならないことを示唆しています。このような産業構造の変革に敏感に対応して、これまで先輩の挑戦しなかった新分野、新企業への果敢な対応などが功を奏したものと思われます。

ところで、このクラスでは前年度、35人もの学生が、全国各地の企業や学校で行われるインターンシップ研修に熱心に参加しましたが、その好機も、進路決定に対しての熱心な意欲の引き金になったのではないかと考えております。

一方、進学については、時期の早まった本校専攻科への推薦あるいは学力入試への積極的な取り組み、および例年とほぼ同様の大学編入試への挑戦は満足な結果につながりました。これも高専生の資質の高さが社会に認められていることの表れだと思います。特にこれまでにあまり例のなかったような超難関大学にも合格できましたが、早期からの準備や強い意志決定が原動力となったのはいうまでもありません。

いずれにせよ、早期から自分の進路をじっくりと考え、行動することが成功につながる秘訣と思われます。

就職 Mテック、オルガノ、カンセツ、京セラ、協和発酵バイオ、コベルコ建機、シチズンセイミツ、シマノ、シャープ、JAL航空機整備成田、武田薬品光工場、中国電力（2名）、デルタ工業、テルモ、東京電力、東芝エレベータ、トクヤマ、西日本旅客鉄道、三浦工業、三菱重工業長崎造船所、三菱電機システムサービス、三菱電機マイコン機器ソフトウェア、明治乳業広島工場、リコー厚木工場

進学 徳山高専専攻科（8名）、秋田大学、大阪大学、岡山大学、九州工業大学、東京大学、豊橋技術科学大学、長岡技術科学大学（2名）、山口大学

□ 就職・進学試験体験記 □

ゼロからのスタート

機械電気工学科5年
四熊 大樹



将来何をしたいのかわからない。
そう考えている人も多いのではないのでしょうか。

私の就職活動はこの状態から始まりました。
しかし、そんな私でも行きたい企業を決めて内定をもらうことができました。

私が、就職活動を始めたのは4年生の1月です。
行きたい企業も決まっておらず焦っていました。
そんな私が行ったことは企業説明会に積極的に参加することでした。何度も参加するうちに興味のある業種や企業が見えてきて、その業種・企業について調べました。

志望する企業が決まると、履歴書の作成です。
学生生活で行ったことや自己アピールなど筆がスラスラ進むものではなかったです。しかし、私は

学生生活で部活を頑張ったという自信があったので部活を中心に埋めることができました。ここで書くことは、全国制覇したとか賞をもらったという事じゃなくても部活を休まず通ったなどでもいいと思います。いろいろな話をするのではなくストーリーを作って書くとき書きやすかったです。

学力試験は先輩の過去問を見るのが1番でした。それだけでは不安&時間が余って仕方がないという人は教科の基礎の部分をやっておくと良いと思います。

面接試験は、最も気合いを入れました。先生や友達と自分の言葉でアピールできるまで練習をしました。面接内容は、履歴書の内容はもちろん、1分間の自己アピールなどドキッとする内容ばかりです。原稿を丸暗記では失敗してしまいます。何度も何度も練習をして口が勝手に動くまで頑張ってください。自分のことを知って挑むことが大事だと思うので、紙に自分について箇条書きしてみるのもいいと思います。

高専生活は長いようであつという間です。振り返って充実したものだったと思えるように楽しんでください。
西日本旅客鉄道

編入試験を終えて

機械電気工学科5年
貞森 友章



私が大学への編入を意識し始めたのは、3年の終わりごろのことでした。それまでは、自分の進路についてあまり考えていませんでしたが、漠然と大学に行ってもっと多くのことを学んでみたいと思っていました。

とりあえず思いついたらすぐ実行ということで、4年になったその日から勉強をしていました。時間的にはだいぶ余裕があったので、スケジュールをきちんと立てて勉強することを心掛けていましたし、とくに苦手意識のあった英語には多くの時間を割いて勉強していました。英語を聞きながら登校してみたり、ときには英字新聞を読んだりとかいろいろなこと挑戦しました。また、試験前には過去問の添削等をしていただいたりして、多くの先生方にお世話になりました。友人や

両親を含め、周りの人たちのサポートには、とても助けられましたし、感謝しています。

私の場合、試験直前は勉強以外何もしないということも多かったのですが、たまには息抜きをして日々の生活を楽しんだほうがいいです。これから編入試験を受ける人は、できるだけ早い段階から勉強に取り組み、また部活動や学校の勉強との兼ね合いも大事にして、両立できるように自分なりに工夫してみてください。

編入試験は受験する人がほぼ高専生に限られており、受験者数も少ないため、誰にでも合格するチャンスはあると思います。最初から自分はだめだと決め付けるのではなく、まずは気になる大学の試験について調べてみてはどうでしょうか。

これから進学にしろ就職にしろ、進路を決定する人は、自分がどうしたいのかはっきりとした目的意識を持って、自分の将来を考えた上で進路を決定してください。

そして自分の望んだ進路に進めることを願っています。

東京大学

情報電子工学科

就職・進学状況 多くの情報収集と早めの行動を！



5年担任 情報電子工学科
准教授 守川 和夫

来年度、就職活動を迎えようとしていた4年生の夏過ぎ、2008年9月、世界経済に大きな影響を与えた事件が起こった。アメリカでリーマンブラザーズが負債総額約64兆円という史上最大の倒産劇へと至り、リーマンショックとして世界的な金融危機を招くことになった。

リーマンショックの余波が蔓延するなか就職戦線がスタートした。求人会社数、求人訪問を受けた会社数とも昨年の70～80%程度に止まり、各社の採用予定人数こそ昨年並みに書いてはあるものの先行きの不透明感から実質は相当抑え気味であろうが、鉄道、電力、ガス、電話など社会的基盤を形成する会社は強気のようなのである。

就職活動を支援するための一環として本校及び他高専の卒業生を中心に会社説明会を企画することとした。求人訪問された採用担当の方をお願いしたところ12社からの参加申し込みを受けた。後期末試験も終わり、いよいよ本腰を入れて就職先を考えなければならない時期で、就職希望のほとんどの本科生及び一部の専攻科生が出席した。すでに就職希望先を決めていた学生も含め、結果的に会社説明会参加の7社に就職希望の申し出があった。卒業生による会社説明会は就職先を決める上で有効な情報源であり、このような企画は今後も継続していくべきだと次年度の進路指導担当に引き継いだ。

当初、就職希望の21名で“就活”をスタートさせ、大半は4月早々から就職試験の第一ラウンドに臨んだ。先の会社説明会参加の会社からはいずれも順調に内定をいただくことができたが、結果はわずかに過半数の10名の内定しか貰えなかった。不採用のショックを受けている間もなく第二ラウンドに挑み、7名の内定が決まった。その後は、進学へ切り替えたり、“就活”を続けたり、進路に悩んだりと、

年内で就職が内定しているのは結局17名である。

例年、主要な勤務予定地として首都圏、関西、地元3県（山口、広島、福岡）に3分されていたが、今年度の傾向は少し違っていた。第一ラウンドの時点で関西と地元3県の志向が強く、内定が決まった勤務予定地はほとんどが西日本（大阪以西）で、なかでも県内が11名となっている。

進学では、まず本校専攻科の推薦組の7名は順当に合格し、幸先よいスタートを切ったが、学力受験組から雲行きが怪しくなってきた。学力受験では6名のうち4名の合格であったが、2名は後に大学編入が決まって、専攻科には9名が入学する予定である。

大学編入は受験日程によって第一志望の大学以外に数校を併願受験することで対応している。大学編入は技術科学大学も含め8名となった。大学編入は延べ20名受験し、合格したのは9名と、合格率は50%に満たなかった。

“就活”、“進活”にかかわらず、普段の高専生活で学業だけでなくクラブ活動、学生会活動、資格取得などに力を注いで取り組んできたかどうか勝負の分かれ目となる。

“就活”では、会社から送られてきた資料やHPに載っている業務内容だけでなく、会社理念や求められている人材像など、隅から隅まで目を通しておくべきである。

“進活”では、大学の学科、研究室もHPで詳しく公開されているので、大学編入後の研究テーマも視野に入れておく必要がある。

徹底した情報収集は必須で、4年生の後期には活動を開始することを勧めたい。これから“就活”、“進活”を控えた皆さんに少しでも参考になれば幸いである。

就職 アイティー、アトラス情報サービス、宇部情報システム、エイム、エヌアイ情報システム、NTTコミュニケーションズ、NTTコムウェア西日本、KOUZIRO、西京銀行、シャープビジネスコンピュータソフトウェア、中国電力、東ソー南陽事業所、トクヤマ、トクヤマ情報サービス、西日本旅客鉄道、日立交通テクノロジー、メディコムソリューション

進学 徳山高専専攻科（9名）、岩手県立大学、九州工業大学、高知工科大学、筑波大学、豊橋技術科学大学、長岡技術科学大学、広島大学（2名）

□ 就職・進学試験体験記 □

就職活動体験記

情報電子工学科5年
大谷 洋平



就職と決めたのは4年になった頃です。私には大学に入って更に専門的に学びたいという分野がありませんでしたので、就職の道を選ぶことにしました。就職と決めたのはよかったのですが、問題はこれといってなりたい職種がないということでした。どんな仕事でも全力で頑張ろうという意志はあったのですが、具体的にどんな仕事がしたいかということは思い浮かびませんでした。

そこで、私が注目したのは企業の求める人材や社内制度などの情報でした。社会人になっても「自己の力を伸ばし続けたい」という意志があったので、自分に合った企業を探すことができました。企業研究はエントリーシートや面接時にも役に立つのでしっかりしておくべきです。

企業が決めれば、エントリーシートの作成、就

職試験です。エントリーシートや面接で重要になるのは、自分が今までに何を経験し、何を学んできたのかだと思います。思い当たらない人は、意志を持って様々な事に挑戦してみるべきだと思います。自信を持って話せることがあれば、エントリーシートにも書けるし、面接でも落ち着いて話すことができます。

筆記試験は、過去に先輩が受けた試験の報告書があれば具体的な対策が取れるので有利です。私の場合は会社からのアバウトな試験内容しか解らなかつた上、その時点から勉強を始めたことによる勉強不足もあってとても苦労しました。しかし、今まで授業で学んできた知識は身につけていたようで、大体の問題に答えることができました。毎日の学校での勉強は大事だということです。

就職しようと思っている人は、「今まで何をしてきたのか?」「今から何ができるのか?」ということを考えてみることをお勧めします。就職活動は既に始まっているという意識を持ちながら高専生活を過ごしていきましょう。

西日本旅客鉄道

受験体験記

情報電子工学科5年
鈴尾 大地



進学も就職も本当の勝負は受験までの四年間…当然と言えば当然ですが、これが私に言える唯一のアドバイスです。

私は高専入学時から進学を考えていて、一時期は就職に揺れながらも大学編入に決めました。そしてこの度、国立豊橋技術科学大学の編入試験に合格しましたが、実はこの推薦編入試は書類選考で、試験らしい試験はなく、準備らしい準備もありませんでした。おそらくクラス中でも最も楽に進路を決めてしまったように見えることでしょう。しかし書類選考は高専生活の過ごし方だけで合否を決める試験であり、最も「勝負期間」が長くごまかしの利かない試験なのです。

幸い私はこの点でいくつか強みがありました。主なものは、資格、課外活動（プロコンの全国入

賞)、英語が比較的得意なことで、いずれも三年生前後から積極的に取り組み始めたことです。学業成績では何も光る物のなかつた私ですが、無事決まったのはこれらが評価されたためではないかと思っています。受験校が書類選考でなかつたとしても、これらは付加価値としてプラスに働いたはず

です。
進学か就職かにかかわらず皆さんに心掛けていて欲しいのは、「履歴書ネタ集め」を貪欲に、という点です。進路決定の場で強みになりそうなものを見つけたら、とにかくかじりついてみてください。もちろん授業をしっかりとというのは前提ですが、クラス一位に輝くのが常に一人でも、資格、高専祭、コンテスト、学生会…誰にでも活躍のチャンスのあるフィールドはたくさんあります。インパクトある「ネタ」ほど時間と努力が必要で、実力になり、成果以上のものを学べて、高専生活の思い出になります。これらはどんな編入試や就職試験でも、あなたの強力な武器になるでしょう。

受験体験記としてはお粗末なものとなってしまいましたが、皆さんの参考になればと思います。

豊橋技術科学大学

土木建築工学科

就職・進学状況

何をしたかではなく、何のために
したのが大事



5年担任 土木建築工学科
教授 上 俊二

冒頭の題目は昨年公開された映画「剣岳 点の記」の中で使われたセリフです。この映画は「死の山」と恐れられてきた前人未到の剣岳に命懸けで三角点を設置しようと挑んだ測量隊の記録映画ですが、この映画の主人公たちの生き様、言動を見て結果が大事なのではなく目的をもって悔いなくやり遂げるその過程が大事だということがよくわかりました。

さて、本年度の土木建築工学科5年生の進路状況は40名の学生のうち、就職が13名（33%）、進学が27名（67%）でした。また、それぞれの内訳は就職では民間企業が9名、公務員が4名、進学では本校専攻科が19名（推薦14名、学力5名）、大学編入が8名（推薦4名、学力4名）でした。

民間企業就職では、公共事業の縮小など建設業界は依然不況が続いており、昨年度に比べると約60社少ない約140社（建設業以外の職種を含む）からの求人をいただきました。企業からの求人、就職試験は年々早くなっており、10月より求人が始まり4月までに殆どの企業で就職試験があり、5月までに内定がほぼ決まる状況でした。民間企業就職希望9名の内、第1希望の企業にすんなりと内定が決まった者は4名、第2希望で内定が決まった者が4名、残り1名は第4希望でやっと内定が決まる状況でした。このように就職試験は厳しくなっている感がありますが、落とされた理由を尋ねてみるとその殆どが面接試験で「元気がない。覇気がない。積極性が欲しい。」というような指摘が多かったように思います。このように、学力以上にやる気、バイタリティなどの人間性が厳しく試されるようでした。

公務員希望者は、不況を反映して年々増加しており、競争が激しくなっています。受験は自由応募ですのでいくらでも可能ですが、まず1次試験（筆記試験）に合格するよう早めから準備する必要があります。1次試験に合格すれば3次試験まで行う機関もあり、受験者の学力や人間性が厳しく試されます。面接試験は民間企業と同様に重視されており、「な

ぜ公務員になりたいのか」、「公務員になって何をしたいのか」等を明確に答えることが求められます。今年度は公務員就職は当初5名の希望者がいましたが、1名は進学に変更し、3名は希望通り第1志望の市役所、県庁に就職が内定しました。残り1名については市の臨時職員として内定が決められました。

進学希望については、昨年度に続きクラスの半数以上の者が本校専攻科、他大学に進路が決まりましたが、数年前に比べ、他大学および専攻科への進学は容易になった感があります。これは民間企業の求人と同様に大学より先生が来校され編入の説明会が何回か実施されましたが、編入した卒業生の実績や評判がよいので優秀な学生が欲しいというものでした。今年度は進学希望の殆どの者が第1志望の大学、専攻科に進学することが出来、特に学力で受験した者では2つ以上の大学に4名が合格するなど、結果としては順調だったように思えますが、合格者は受験に向けて早くから準備をしていたことが勝因であったように思えます。

土木建築工学科では4年時のキャリアガイダンスの授業では民間企業、公務員、進学の3グループに分かれ進路指導を行っていますが、志望の動機を明確にし、それに向けて早めの準備をすることが必要になってきます。不況とはいえ、しっかり真の実力さえついていけば就職、進学とも希望のところへ進むことができると思いますので日頃からの高専の生活（授業、クラブ活動など）を大事にしてもらいたいと思います。

最後になりましたが、近年はキャリア教育支援室からの指導・支援（エントリーシート・履歴書の書き方、卒業生の就職体験談、面接練習）が充実しており、学生の就職・進学活動に対する知識・意識が効率的に向上したように思います。キャリア教育支援室のスタッフの教職員の皆様にこの場を借りて改めてお礼を申し上げたいと思います。

就職 鹿島クレスウエスト、川岸工業、関西電力、三建設備工業、周南市、大鉄工業、中国電力、TOTOエンジニアリング、西日本旅客鉄道、ハローネット、広島市、山口県

進学 徳山高専専攻科（19名）、神戸大学、千葉大学（2名）、豊橋技術科学大学（2名）、長岡技術科学大学、三重大学、立命館大学

□ 就職・進学試験体験記 □

思いがけず、面接中に 内々定を頂いて…

土木建築工学科5年
大上 理佐



4月。社長から突然、面接中に内々定を頂きました。何がこういう結果を招いたのか。振り返ってみることにします。

- ①情報収集——先生・先輩方にお話を伺い、両親に相談した。(4年生冬)
- ②企業選択——求人票より、興味のある企業を数社決定。(4年生2月)
- ③企業訪問——第一志望の企業説明会に参加。(自分が必要とされていないことを実感する。)(4年生3月初旬)
- ④頭の切り替え——「自分が勉強してきたことがすべて生かされる職場に就職したい」という概念を捨てる。
- ⑤企業訪問——三建設備の説明会に参加。手ごたえを感じた。(4年生3月初旬)

⑥面接——自分の意見を正直に伝えた。(3~4月)

面接はマッチング。失敗したからといってそれは相互の意見が一致しなかっただけであり、落ち込む必要はありません。しかし、始めから必要とされていない企業に面接に行くのは避けたいものです。だから、できる限り情報を集めてください。

徳山高専は皆仲間です。進路で不安や悩みがあれば、周りの人に気軽に相談してみてください。先生や、先輩は必ず力になってくれると思います。

「不景気」、「就職氷河期」、「男社会の建設業界」……という悪条件が重なった中で就職するには、具体的に企業がどのような人材を必要としているかということ、(求人は沢山きますが) 企業が自分を指名するということに気づかなければならないと思います。就職するための鍵は「情報収集」と「柔軟な頭を持つこと」そして、「時代の波に乗ること」だと実感しました。

最後になりましたが、お世話になった先生、先輩方本当にありがとうございました。

三建設備工業

進学試験体験記

土木建築工学科5年
坂本 健一



周りの皆がバタバタしていた6月、私の長岡技科大学への進学が決定しました。といっても、推薦であったため学力試験は無く、5年生において大変だったのは志望調査書を考えるくらいだった気がします。本当に大変だったのは、その推薦資格を取るまでの4年生の勉強でした。

長岡技科大への進学を真剣に考え始めたのは、4年も半分終わった11月でした。それまでは軽い気持ちで進学について考えており、成り行きでどうかなるだろうと思っていました。前期では頑張っている成績を取っていましたが、大学進学の視野を広げるためであって、明確な志望校への目標を持って頑張っていたわけではありませんでした。長岡技科大への進学を決めたのは高専で行われた大学説明会で、そこで大学環境や研究につ

いて興味を持ちました。また、推薦入試にVOS特待生という制度があることを知り、その制度を受ける条件を満たすために、後期は目標を持って一生懸命勉強に取り組みました。その努力の甲斐あって条件を満たす成績を取ることができ、授業料が半額免除になる特待生制度を受けることができました。欲を言えば授業料が全額免除になる更に上の制度を受けたかったのですが、そこでは3年生の成績も条件を満たす必要があったので、残念ながら受けることができませんでした。もっと早くから進学先を定めて、目標を持って勉強していたらもしかしたら…そう考えると、3年の自分の進学への無関心さが惜しまれます。

私は補欠で高専に入学しており、その時も進学のことについて深く考えておらず、それが入試の時の勉強不足に繋がったのだと今だから思えます。先のことを早くから考え、目標を持って努力することが大切だと実感しました。これから進学を考えることになる皆さんには、早い段階で自分の進学先を決めることをお勧めします。そうすることで目標もでき、きっと勉強をさらに捗らせることができると思います。 長岡技術科学大学

機械制御工学専攻

就職・進学状況 自分の進む道を明確に！



機械制御工学専攻幹事
機械電気工学科
講師 石田 浩一

本年度も昨年度と変わらず機械制御工学専攻の修了生は5名でした。進路は就職2名、進学3名となっています。今年就職先は共に県外となりました。今年就職に関してはリーマンショックの影響も考えられましたが、求人に関してはそれほど影響はなかったように感じます。しかし、採用に関しては厳しい状況であったように思います。どの企業も求人数を絞ってきている関係で人物を厳しく審査しているためだと思います。今後もこの傾向が続くはずですので、就職を考える学生は、何をするために会社に行くのかをよく考えて、その会社を選ばれるための努力はしておきましょう。そのためにも、早め

に就職対策をしておくことが大切です。また、求人は多くても、多くの企業を受けられる訳ではないことも認識しておいてください。現状では、専攻科生の評価は大学生に比して高いですが、大学生・大学院生と同じ土俵で戦う事になるので、高専専攻科生の良いところと悪いところを考え、認識しておくことも大切です。

一方、進学に関しては、専攻科生の進学に対する意識の高さのためか問題なく大学院進学を決めています。最近では進学希望者には有利な状況が続いています。ただし、進学先を安易に決めると卒業、就職が厳しくなるので、大学の名前で決めるのではなく、自分のやりたいことは何なのかをしっかりと見極めて選ぶようにしてください。

就職・進学共に大学に比べると良い状況ですが、これから先は分かりません。自分の進むべき道をしっかり認識して、そのための準備を怠らないようにしましょう。

就職 オークマ、日本製鋼所

進学 九州大学大学院、徳島大学大学院、長岡技術科学大学大学院

就職・進学試験体験記

行動を起こせば 変わる！

機械制御工学専攻2年
吉松 尚暁



私は株式会社日本製鋼所に就職が決定しました。未だに自分が働いている場面が上手く想像できませんが、とりあえず今できることをして過ごしています。

さて約1年前、私はどのような仕事か自分にあっているかということが良く分からず、また、学校の課題が忙しいことを理由に、就職活動といえば企業のホームページを見る程度で、本格的に始めるのをずるずると先延ばしにしてきました。気が付けば2月が終わりかけており、そこでようやく危機感を持ちました。このままではまずいと思い、私は慌ててインターネットを利用して情報を集めたりしましたが、それでもここに行きたいという会社は決まりませんでした。

日本製鋼所という会社を見つけたのはほとんど

偶然でした。そのときの説明会の日程が合っていたこと、先生がここなら推薦が出せるとおっしゃったことがあり、とりあえずここを考えてみようという気持ちになりました。そのような漠然とした気持ちから始めた私の就職活動でしたが、その後の会社説明会や工場見学を通して、徐々にここに行きたいという気持ちが強くなっていき、最終的に採用試験を受けるということに至りました。

結局私が何を言いたいのかというと、自分が何をしたいのかがわからなくても、何か行動を起こせば何かが変わるということです。自分に何があるかなんて、一人で考えていてもおそらく答えは出ないと思います。そういう時、とりあえずでもよいので会社説明会に出ることです。会社説明会では、企業のことを知ることができるのはもちろんですが、様々な場所から来ている参加者の方との交流もあるので、自分を見つめ直す良いきっかけにもなると思います。

就職活動は動き出し始めれば意外になんとかなるものです。行動を始めることを躊躇せず、とにかく動き出してみてください。

日本製鋼所

情報電子工学専攻

就職・進学状況 なりたい自分への 選択を！



情報電子工学専攻幹事
情報電子工学科
准教授 原田 徳彦

平成21年度の情報電子工学専攻の2年生は13名です。就職希望者は10名、進学希望者は3名です。

専攻科生の就職では良くも悪くも大学生と同じ扱いを受けます。良い面は技術職に加え総合職への応募が可能となり職域が広がることです。悪い面は専門性が薄れるほどライバルが増えるということです。そこで技術面に加えて人物面が大きく判断の基準に加わると思います。でも、高専生は人物面でも決して大学生に劣ることはないと思います。むしろ、自分の意見がはっきり言え、友達を大切にしながら周りとうまく付き合える学生がほとんどです。ただ、就職活動の時期が早まり、十分に就職試験に備える

時間が不足していることは否定できません。そのため、早く目標を決めて準備をしっかりとすることです。本校では「きゃりPi」に代表されるキャリア教育支援室のプログラムが皆さんのその時のためにあるのです。企業の業務・職務を研究し、自分がそれに合う人物であることを説得できる材料を準備するのです。

一方、大学院への進学も将来の研究職につながるパスとしての意義があります。また、皆さんの興味分野も多様化する傾向から、大学院進学を機に、より興味のある分野に専門分野をシフトするという意義もあります。この際、これまでの研究が新しい研究分野にどうつながっていくかを考えてそこをうまくPRできるようにしっかり特別研究をしておくことが大切です。

就職 エヌ・ティ・ティファシリティーズ、関西電力、協和エクシオ、コア、ジーエス・ユアサコーポレーション、第一コンピューターリソース、TDCソフトウェアエンジニアリング、徳山工業高等専門学校、日立交通テクノロジー、ワンオールシステム

進学 九州工業大学大学院、奈良先端科学技術大学院大学、広島大学大学院

就職・進学試験体験記

就活を終えて



情報電子工学専攻2年
下村 佳史

私は、関西電力株式会社に就職が決まりました。働く部門も決定し、残り少ない学生生活を有意義に過ごしています。

進学か就職かで迷っていた私は、専攻科に入學してすぐに、研究の兼ね合いもあって、インターンシップで大学院に行く機会がありました。短い期間ではありましたがキャンパスライフを経験し、本当にやりたいことを見極めることができ、就職の意思が固まりました。

実際に就職活動を始めたのは、専攻科1年の11月からでした。学校の進路支援室が提供する、「きゃりPi」を活用したことで、基本的な対策（履歴書作成、マナー、面接等）はできました。

2月頃には、各地で企業説明会が始まり、私も一番興味があった電力業界のセミナーに参加しま

した。そこでは、大学生の気迫に圧倒されつつも、様々な情報を得ることができ、電力業界への思いが強まりました。そして、3月にはSPI試験などをこなし、4月からの筆記、面接試験へと続きます。

アドバイスとしては、“自己分析”に尽きます。企業について調べる前に、自分自身と向き合い知ること、自分を売り込んでいく上でとても重要です。私の場合、“My Best Appeal”なるものを考え、それを軸として面接試験に臨んでいました。企業や業種が変わっても、売り込むものは基本的に変わらないからです。また、セミナーや面接で、高専専攻科という特殊な立場を生かした積極的な質問をすることも良いかと思います。さらに、大学生と比べて、専攻科生は研究をしっかりと行っています。研究に関してアピールすることも有効です。

最後に、就職氷河期と言われる昨今、企業は優秀かつ新しい発想を持った人材を求めているように感じました。就活に必要なものは、十分な準備と少しの自信です。頑張ってください。

関西電力

環境建設工学専攻

就職・進学状況

徳山高専発展につながる

専攻科修了生の活躍



環境建設工学専攻幹事
土木建築工学科
准教授 古田 健一

2009年度環境建設工学専攻の就職・進学状況は、修了予定者のうち、民間就職5名、国立大学大学院進学3名、地方公務員2名でした。

民間就職では公共事業が激減しているため、ゼネコン等の建設会社は採用が少ない一方で、本校学生は、東京電力・三浦工業・日立プラントテクノロジーなどの設備系の企業に就職を決めています。また、土木系専門業者のエステック、ハウスメーカーのトヨタホームさい京カンパニーにも採用されました。いずれも本人の希望職種の企業に就職が決まりました。不景気な世の中でも、企業は本当に実力のある人材を必要としており、そして本校の学生がそれに

答える資質を持っていたことがわかります。

公務員就職も難関のひとつで、公務員試験対策の専門学校に通う人も多い時代に、本校の勉強を基本としての合格は見事だと思います。

大学院進学も、今年度は非常に素晴らしい結果となっています。東京大学大学院（新領域）、東京工業大学大学院（人間環境システム専攻）、広島大学大学院（工学研究科）に合格を決めている事実からわかるように、いかに本校専攻科の教育が充実し、学生に学力が備わっているかを示しているのです。

このように、修了後に進路が開けていることが魅力となり、最近では専攻科進学が土木建築工学科卒業生の約半数に及んでいます。今後もこの傾向は続く見込みです。本校専攻科修了生の活躍が在校生の進路を切り開き、本校発展の連鎖となりつつあるのです。

就職 エステック、周南市、東京電力、トヨタホームさい京カンパニー、光市、日立プラントテクノロジー、三浦工業

進学 東京工業大学大学院、東京大学大学院、広島大学大学院

□ 就職・進学試験体験記 □

大学院進学までの1年間



環境建設工学専攻2年
徳光 洋輔

- 3月：大学院の情報収集をしました（学校に保管されている資料やインターネット等）。ここで、東京大学と長岡技術科学大学に興味を持ちました。
- 4月：東京大学の研究室を見学して、受験を決意しました。東京大学の進学説明会に行きました。
- 5月：長岡技術科学大学の研究室を見学して、受験を決意しました。東京大学の校内見学会に行きました。
- 6月：東京大学へ事前に提出する小論文を書きました。
- 7月：長岡技術科学大学の試験がありました（水理学と構造工学に関する口頭試問と面接）。東京大学の1回目の面接試験がありまし

た。

8月：東京大学の2回目の面接試験がありました。

私の志望した大学院はいずれも筆記試験がなかったので、受験勉強は面接の対策に専念しました。先生方や友人達に練習をしてもらい、時には企業等の採用係の方々にもお話を伺いました。私は今回の受験で総勢20人近くの人にお世話になりました。私は周りの人に恵まれました。

面接試験では、自分を飾っても緊張するしボロが出るので、素の自分を売り込むべきだと考えます。そのためにはまず自分の武器を知ることです。寮も部活もアルバイトも長続きせず、試験の成績も良い方ではない私の唯一の武器は、渡辺先生のもとで研究に力を注いだことでした。それが評価され、合格に繋がったのだと考えます。

しかし、合格通知が来た後には最後の難関が待ち構えています。それは専攻科卒業直前にある外部機関による学位授与試験です。これに落ちればせっかく合格した大学院にも入学できません。受験が終わっても気を抜いてはいけません。

東京大学大学院

卒業生だより

ものづくりの日々



機械電気工学科
第26期卒
アナログ・デバイセズ
株式会社
藤田 高史

私は機械電気工学科を卒業した後、大学、大学院を経て現在の会社に就職しました。仕事の内容は半導体集積回路（主にオーディオ用D級アンプ）の設計です。業務は設計が中心で、毎日画面とにらめっこしていますが、ラボで半田付けをしたり、設計した製品の測定評価もしています。

オーディオに興味を持ったのは高専1年生の頃だったと思います。その後少したつとアンプに興味を持ちはじめ、電子回路を独学で勉強しはじめました。残念ながら当時機械電気工学科には、トランジスタレベルでの設計を学べるような授業科目はなく、もっと専門的に回路を勉強したいという思いから大学へ編入しました。

ただ、編入1年目はまさに地獄でした。主に機械屋さんとしての勉強をしていた当時の私にとって電気分野へ転向するということはとてもチャレンジなことでした。もともと1年生から大学で電気を勉強してきた学生に比べてかなりの知識の差がある状態で、授業を聞いてもなんのことやらさっぱりということも多く、自分で一から電気を勉強しなければなりません。そんな中でハードな授業、大量のレポートに追われ、1日3～4時間しか寝ることが出来なかったと記憶しています。確かに得たものも多く、今の私に至るまでには必要不可欠だったと思いますが、二度と戻りたくない日々です。

学部4年次になるとようやく他の学生と同じレベルでふるまえるようになり、希望通りアナログ回路の研究室へと配属になって回路三昧の生活が続きました。その後大学院修士課程に進んでさらに理解を深め、縁あってインターンシップの後、アナログ・デバイセズに入社しました。弊社はアンプ、コンバータ、DSPなどで有名です。自作派オーディオマ

ニアにとってはオペアンプ等、憧れのブランドの1つだと思います。

もともと自分の手でアンプを設計したいと思って始めた回路の勉強でしたが、大学、大学院とアナログ回路の勉強を続け、ついには仕事でオーディオアンプを設計するようになってしまいました。現在は国内某A社の高級CDプレイヤーに使用されているDACを設計したデザイナーと同じプロジェクトで働いています。オーディオマニアとしてはこの上ない喜びです。

さて、高専時代を思い出すと、やはり一番良かったことは、ものづくりの楽しさを覚えたことです。振り返ると、高専5年間は公私共にものづくりに明け暮れました。4年生のときに高専祭のために製作した回転式オブジェをはじめ、パイプ楽器、風車、学内ロボコン、スピーカー、アンプ…とにかくたくさん作りました。とてもなつかしく思い出されます。工作機械の使い方をひとつとおり学んだことも大きなアドバンテージになりました。思えば工場の先生方には当時お世話になりっぱなしでした。この場を借りてお礼申し上げます。

現在でもオーディオ、電子工作を中心にもものづくりを趣味とし、毎日を送っています。最近の作品は電波時計でニキシ管を表示デバイスとしました。友人にはなかなか好評です。

日々の生活の中で、打ち込めるもの、心ときめくものがあるということはとても幸せなことだと思います。私は高専時代にもものづくりの楽しさに出会ったことを本当にうれしく思います。在校生のみなさんにもそういったものが見つかることを祈っています。



電波時計 with nixie tube (2009.5.10完成)

卒業生だより

チャレンジは可能性を生む

情報電子工学科 第21期卒
福岡工業大学 短期大学部
ビジネス情報学科 准教授 藤井 厚紀

私は、平成11年に情報電子工学科を卒業し、九州工業大学・同大学院（内1年間は大阪大学大学院研究学生）を経て、岡山県立大学保健福祉学部助手として6年間勤務しておりました。それに並行して静岡大学大学院で博士の学位を取得し、現在は福岡工業大学短期大学部の教員をしております。

現在の大学では主に情報技術と医療福祉に関する教育・研究業務に携わっています。近年、医療福祉の現場においても急速にIT化が進んでいますが、その潮流の中で今最も注目されているのが「電子カルテ」の導入についてです。従来、カルテは紙に記載された様式に沿って医師が手書きで診療内容を記録していましたが、電子カルテでは診療記録を電子データに置き換えるため、業務全般の合理化、効率化を図ることが可能となります。

しかし、実際の導入については極めて遅れているのが現状です。その原因は様々考えられますが、ベンダーが提供するシステムの中に、現場スタッフのニーズに合致していない要素が数多くあるということが大きく関係している様子です。

これらの背景から、現在私は電子カルテのユーザーインターフェースに関する研究について取り組んでいます。

本当は上の文章で締めくくりたいところですが、実を言いますと私自身、電子カルテの開発・実務経験はなく、勉強し始めて未だ1年も満たない素人なのです。「研究をなめるな！」とお叱りを受けそうですが、私自身それはそれでOK、まずはチャレンジしてみたいと思っています。

自分にとって全く知らないことであっても挑戦してみよう、そう思えるのはやはり高専から岡山県立大に至るまでの経験があったからこそだと思います。

高専の時には主に制御工学、大学・大学院時代では情報工学と神経生理学、岡山県立大では実験心理

学と福祉工学に関する研究テーマに取り組んできました。特に岡山県立大でのテーマは、それまで取り組んできた内容と全く異なるものであったため、研究当初は苦労の連続でした。専門用語が分からない、概念が理解できないなど枚挙にいとまがないほど。しかし、それらの困難を克服してゆく過程で「それまでに得た知識や経験」がとても重要になることを知ることができたのです。もし、異分野だから、専門じゃないからといって最初から手をつけていなければ、今の自分ではなかったのではないかと思います。

私がこれまでの研究を通じて学んだこと、それは例えば自分の知らない世界に飛び込んだとしても、それまでに自分が得た知識や経験はどこかの面で必ず役に立ち、そこでの経験はまた新たな可能性を生むということです。研究者としてはまだまだ未熟な私ですが、今もこれからもあらゆる分野に対して果敢にチャレンジしてゆきたいと思っています。

最後になりましたが、後輩の皆さん、多くの人との出会いを大切に、充実した高専生活を送ってください。高専で学び経験したことは、その後きっと役に立つと思います。皆さんのご活躍を応援しています。



福岡の海の中道海浜公園にて長女と共に。子育てについても「チャレンジ」中です。

卒業生だより

卒業後29年、今思うこと

土木建築工学科 第3期卒
Topcon Positioning Systems, Inc
先村 律雄

学校のHPを見て驚いています。高専大会で優勝、インターハイと国体出場、そして様々なコンテストで優勝など夢物語だったことが継続して実現しているからです。すごい。

この29年で徳山高専に伝統が根付いてきていることを実感します。

私もこれと同じ時間を過ごし、そして今があるはずですが、年齢以外は何も変わっていないように思います。

卒業後29年、坂から見えた夕日に照らされる瀬戸内海を想いながら、今を書いてみます。

私は45歳の後半からアメリカのオハイオ州コロンバス市に駐在しています。精密機器メーカのトプコンのソフトウェア開発拠点があるためです。測量システムに関連したソフトウェアの設計開発をおこなっています。

赴任した最初の約2ヶ月は特につらかったことを思い出します。事務所に日本人がいないため、住まい、運転免許、水道、生活必需品購入、および通勤経路の確認など、生活するだけで限界状態です。

赴任2週間後の土曜日、一日中寝ていたことを覚えています。人はこれまで育った習慣、文化、そして言語等の環境が突然変わると、激しく体力を消耗します。

49歳の今、ある程度の慣れができていることに気づき、少し不思議な気持ちです。

働く中で信頼関係を築くことや思いやりが大事なことなど日本と同じですが、異なると思ったことが2つあります。

一つ目は、わからないことを素直に質問する文化です。会議で、社長や上役にあなたの考えはここがおかしいと質問することは普通です。最初の頃は内容がわからなかったのでけんかをしているように思いましたが、思ったことを質問し参加することが基本のスタイルです。

質問された側は、相手が誰でも誠実に回答する必要があります。Yes/Noが先にくる言語なので、日

頃からエンジニアとして自分の考えを持っておくことが重要です。きれいな英語を表現することと別の次元です。できません。

二つ目は、いざというときの対応です。開発の締め切りが迫ったとき予定通りは稀で、だいたい問題が発生します。このとき、日本の開発現場では締め切りに対しチーム全力で完成させようとしします。

ここでは、予めできないことを明確化して次回に伸ばします。今思うと、締め切り近くの全力投球は、視界が狭くなっていることが多く、重要な情報の見逃し、締め切り後の対処の忘れもよくあります。何らかの要因で、回りを急に見なくなる性質が日本人にあるように感じます。

今は行動をする前に、冷静に考えるようにしています。実行したいことを具体化して、できるだけ優先順位をつけ、個人感情を排除します。そして100回反対されても100回反論する気概を持っていることを自分自身に確認します。

英語は具体化して理論的に行動する場合、とても便利な道具になります。扱いが難しい道具ですが、日本語にない魅力を持っているように思います。今後も学び続けたいひとつです。

男性の平均寿命の60%を費やした今、時間の持つ冷酷さを感じます。決して戻せないし待ってられません。今後の貴重な時間、エンジニアとしてできる限り、日本および社会のために貢献できるように行動したいです。そのために学ぶ姿勢が一生必要なのだろうと感じています。

日本のためになることは、社会そして自分・家族・子孫の幸せにつながると信じています。

そしてこれは、徳山高専で学んだ5年の教育にきっと叶っていると信じています。



パーティ時のスナップ、私は一番左手前

徳山高専33年間の思い出

情報電子工学科
教授 江口 賢和



私が本校に赴任してから33年が経ち、この3月で定年退職を迎えることになりました。思えば、前任地の九州工業大学情報工学科の助手をしていた時、大学での恩師で、本校情報電子工学科（IE）の初代の主任をされていた故戸田圭一先生が大学を訪ねて来られ、徳山高専に来て、一緒に高専で最初の情報系学科を築いていかないかとの誘いを受け、赴任してきました。

最初は、やはり高校卒の18歳過ぎの学生が相手の大学と、中学卒の15歳過ぎの生徒（学生）が相手の高専では色々な面で違いがあり戸惑いも多かったように思います。赴任最初の年の8月に学生主事補の校務に就きましたが、この校務は大学と高専で最も違う部分で、赴任したての私には非常に荷の重い難しい任務で、戸惑い、悩んだ1年半でした。しかし、学生主事の故村田先生や他の主事補の先生方に助けて頂き何とか務めを果たしたことが自信となり、その後の私の高専での教育の基礎となったように思います。

その後も色々な校務を経験させてもらい、色々なかたちで学生達に接することができました。

寮務主事補の時は、寮生も約200名強の大所帯で、寒い中での大華山へのナイトハイク、そして下山してからの運動会の強行スケジュール、雨の中でのキャンプ、寮祭など若い学生と一緒に過ごした日々が思い出されます。後の主事の時は、寮生も約100名と少なくなっていました。女子寮が設置されたり、寮の行事等も変わり、以前とは違った苦労もありましたが、今振り返れば懐かしく楽しい思い出として蘇ってきます。

クラス担任は33年間で6年半の5クラスと意外と少ない経験でしたが、4、5年の高学年2クラスと3年以下の低学年3クラスを担当しました。高学年と低学年のクラスでは、学生との接し方は違いますが、クラス運営の基本は同じと考え、クラスをま

とめること、そしてクラスでの各人の役割を通しての責任感や公共心を養うことを重点に指導にあたりました。今思えば、実践できたかどうかは自信がありませんが、高専の学生は注意すればよく聞いてくれて、素直な学生達だったという感想を持っています。クラス担任の経験は高専での楽しい思い出としていつまでも残っていくと思います。

授業関係では、情報系は新しい分野の学科でもあり、当時は参考になる大学の学科も少なく、教える科目や内容、さらに、実験や実習を重視する高専教育で備えるべき設備なども一から築いていかななくてはならず、苦労をした事が思い出されます。当時は、コンピュータと言えば動いているのが見れる磁気テープ装置を示していた、一般の人には馴染みのないものであり、また、今考えれば信じられないような性能で数億円していた高価な装置でした。そういう訳で、教育設備としても十分なものは備える事ができなくて、手製で色々な廉価な装置をコンピュータに接続したり、教育用のソフトウェアを開発したりして、より良い教育環境を作っていたことが思い出されます。しかし、今思えば、このような自前の教育設備での不便な教育環境での教育の方が、現在のどのような何時でも使える便利な教育環境での教育よりも教育効率は逆に良いように思います。皆さんがコンピュータを利用する時は、いつも目的をもって使い、コンピュータを使いこなして、そしてコンピュータに使われないように注意して有効に使って下さい。

33年間の高専では、私としては好きな事をやらせてもらい、充実した教員生活だったと満足しています。ここに無事終える事ができます事を関わって頂いた皆様に感謝致します。

最後に、徳山高専の更なるご発展と皆様のご健勝をお祈りいたします。長い間、本当にお世話になりました。

新 任 者 紹 介



一般科目 准教授

よねだ いくお
米田 郁生

●ご出身はどちらですか？

福島県福島市生まれです。りんご畑と田んぼに囲まれて育ちました。

高校から東京の八王子です。

●本校にこられる前はどちらに？

筑波大学大学院で博士取得後、約5年間さすらいの就職浪人…その間、いくつかの関東の大学で非常勤講師として数学を教えました。

●徳山高専の印象は？

校門を出たとき見える海と島々の色が毎日違っていて目にしみます。

●ご趣味はなんですか？

凝り性で飽きっぽい性格なので、趣味遍歴がいろいろ。中2から大学2年まではドラム一筋。以後、映画、芝居、美術鑑賞、バードウォッチング、ジョギングなど。

●今後の抱負をお聞かせください。

論文を読んでいるとき、議論の本質を自分の頭で短くまとめるよう、心掛けています。同じように授業でも、鋭い簡潔な解説を日々発見し改善したいと思います。数学を楽しく感じる子が増えたらいいですね。



一般科目 准教授

まえかわ なおや
前川 直也

●ご出身はどちらですか？

兵庫県

●本校にこられる前はどちらに？

長岡工業高等専門学校（新潟県長岡市）で勤務しておりました。

●徳山高専の印象は？

高専坂の長さに驚きました（長岡高専にも高専坂と呼ばれる坂がありますが格が違います）。しかし、校舎から見える徳山湾は絶景です。映画のロケ地であったことが納得できます。

●今後の抱負をお聞かせください。

同じ高専でありながら、何においても全然違うことに戸惑いを感じています。一日も早く慣れ、徳山高専の発展に尽力したいと思います。



新 任 者 紹 介



機械電気工学科 教授

まきの としあき
牧野 俊昭

●ご出身はどちらですか？

福岡県北九州市（若松区）です。自宅は下松です。

●本校にこられる前はどちらに？

佐世保高専（長崎県）電子制御工学科（MEの学生同様に優秀な学生多）です。7年前は、下松市にある（株）日立製作所に勤務して、新幹線電車N700系、新しい鉄道車両A-train等の研究開発をやっておりました。

●徳山高専の印象は？

徳山高専は、自宅（下松）から学校まで、徒歩で1時間10分の所にあり、週一回の徒歩通勤ベターの所です。また、見晴らしの良い場所にあり、徒歩で登る時に交わす学生とのアイコンタクトも素晴らしいです。

●ご趣味はなんですか？

趣味は雑学です。また、健康維持と品格鍛錬のため、昨年から兄と一緒に「四国お遍路1,200km」に挑戦しております。H21年末は阿波（23番札所）から土佐（30番札所）に入り、約200kmくらい歩きました。太平洋を横目に煩惱を捨て、ただ歩くのみでした。

●今後の抱負をお聞かせください。

早く徳山高専の文化に慣れることです。



機械電気工学科 助教

みうら せいちろう
三浦 靖一郎

●ご出身はどちらですか？

長崎県対馬市生まれの長崎県内育ちです。

●本校にこられる前はどちらに？

福島県いわき市にある福島高専の電気工学科から配置転換で徳山高専機械電気工学科へ赴任しました。

●徳山高専の印象は？

海に山に空にと身近に自然を感じられる一方で日本有数の工業地帯も存在するように、独特な環境や複合学科が特徴的な高専だと思います。

●ご趣味はなんですか？

スポーツ、音楽・映画鑑賞、自動車、コンピュータ、ものづくりなど多彩です。その時その時のホットな趣味に熱中しており、干支のように周期があります。中でも、サッカー活動とモデルロケットを用いた理科普及活動はライフワークになっています。

●今後の抱負をお聞かせください。

近代日本を動かした人物を多く輩出している山口県の歴史や思想などを肌で触れながら自己研鑽し、いずれ何かを社会に還元できればと思っています。



情報電子工学科 准教授

たかやま やすひろ
高山 泰博

●ご出身はどちらですか？

山口県美祢市です。美祢市には3歳までしかいなかったため、ほとんど記憶にありません。その後、山口県内を転々としていましたが、下関市に一番長く住んでいました。

●本校にこられる前はどちらに？

神奈川にある三菱電機の研究所に約22年間勤務していました。山口県人のつもりでしたが、いつの間にか関東での生活が一番長くなってしまいました。

●徳山高専の印象は？

学生がとても礼儀正しいと感じます。私自身徳山高専の出身ですが、昔はそれほどでもなかったような気がします（笑）。教職員の方もとても親切です。

また、学校の周りの景色がとてもきれいです。

●ご趣味はなんですか？

趣味というより、もっぱら実益のために時々料理をしています。最近は簡単なデザートも作るので、小学生の娘も喜んで食べてくれるようになりました。

●今後の抱負をお聞かせください。

学生の皆さんが「徳山高専で学んで良かった」と将来にわたって思えるようにするために、少しでも役立てるようになりたいと思います。



土木建築工学科 助教

にしお こういちろう
西尾 幸一郎

●ご出身はどちらですか？

京都府京都市です。

●本校にこられる前はどちらに？

京都市にある小さな設計事務所に勤務していました。その前は、福祉工学関係の研究所や保育園に勤めていました。

●徳山高専の印象は？

少しは慣れましたが、前の職場と比べると、とにかく人が多く、しかもかなり年下の人ばかりであることに戸惑いました。

●ご家族は？

ひとり暮らしです。

●ご趣味はなんですか？

暇があれば過去にあまりやったことがないことを経験するのが好きです。狂言や落語、Jazzライブ、スポーツクラブなど。最近ではもっぱら山口県内の建築・名所めぐりをしています。

●今後の抱負をお聞かせください。

仕事の面の抱負は、1年の業務の流れが大体頭に入りましたので、来年は年間計画をしっかりと立てて着々と結果を残していきます。

生活の面では、今年禁煙に成功しましたので、来年はダイエットを成功させる予定です。

新 任 者 紹 介



土木建築工学科 助教

かいた たつまさ
海田 辰将

●ご出身はどちらですか？

山口県岩国市周東町です。

●本校にこられる前はどちらに？

大学卒業後、高知高専建設システム工学科（H.16.4～H.19.9）、愛媛大学大学院理工学研究科生産環境工学専攻（H19.10～H21.7）で教員をしていました。

●徳山高専の印象は？

私はCAの卒業生（第19期）です。私が学生の頃と違って、建物も設備も新しくなっていてびっくりしました。相変わらず高専坂はキツイですね。学生さんはみな気持ち良く挨拶してくれますね。活発な雰囲気が良いです。

●ご家族は？

嫁と娘の3人で、熊毛に住んでいます。7月末に産まれたばかりの娘がかわいくて仕方ない今日この頃です。

●ご趣味はなんですか？

磯釣り、クルマ、娘とお風呂と、あまり高尚な趣味はありませんが、私にとって授業＝趣味みたいな感じです。

●今後の抱負をお聞かせください。

中四国を1周して母校に戻ってきました。卒業して学外に出て、初めて高専教育の良さや学生の質の高さが分かりました。学生の皆さんが10年後に「徳山高専を卒業してホントによかった～！」と思えるような5年間または7年間になるよう、全力でお手伝いします。



教育研究支援センター技術職員

いもと たくや
井本 琢哉

●ご出身はどちらですか？

山口市です。

●本校にこられる前はどちらに？

愛媛県の弓削商船高等専門学校に5年ほど勤めていました。弓削商船では、実習船に乗ったりもしていました。

●徳山高専の印象は？

前にいた弓削商船は瀬戸内の島にあり景色がよかったのですが、徳山高専も海や山や工場といったいろんな景色の楽しめるよいところだなと思います。学生の皆さんは、勉強に運動に頑張っているなと感心しています。

●ご家族は？

妻と娘の3人家族です。

●ご趣味はなんですか？

バドミントン、野球観戦、ドライブ、読書、ゲーム等々です。しかし、どれも中途半端なので、これから一生付き合える趣味を見つけられたいと思います。

●今後の抱負をお聞かせください。

実習工場の機械を使い実習や研究支援をしています。しかし、まだまだ未熟なので、機械を使いこなせるよう切磋琢磨しようと思います。そして、皆さんの勉強や研究の役に立てるように頑張っていきたいと思いますので、よろしくお願い致します。



総務課長

くぼ こうしろう
久保 公四郎

●ご出身はどちらですか？

讃岐うどんの地、香川県高松市です。周南市から高速－瀬戸大橋を渡って約300キロです。

●本校にこられる前はどちらに？

香川大学医学部で勤務していました。医学部のある「讃岐の丘」に、香川大学と統合以前の旧香川医科大学医学部附属病院開院（昭和58年）から26年間過ごしました。

●徳山高専の印象は？

一番印象が深かったのは、学生から気軽に「おはようございます。」と挨拶を掛けられたことです。大学で学生から挨拶されることはほとんど無く（医学部だったから？）、とても新鮮でした。また、学生のみならず、職場における教職員の一体感を強く感じております。

●ご趣味はなんですか？

スポーツ全般です。特に、ソフトボール、バドミントンは、生涯スポーツとして続けております。また、釣りも大好きで、季節が良ければ、瀬戸内海をマイボートで走り回っております。（最近は、めっきり機会が減りましたが）

●今後の抱負をお聞かせください。

高専の仕事は初めてで不慣れですが、「徳山の丘」でも一生懸命頑張り、徳山高専のために少しでもお役に立ちたいと思っております。よろしくお願いいたします。



総務課総務係

たなか なおこ
田中 尚子

●ご出身はどちらですか？

山口県周南市です。

●本校にこられる前はどちらに？

山口大学教育学部に勤務していました。

●徳山高専の印象は？

瀬戸内海が一望できるような風光明媚な場所に位置し、四季折々の風情が感じられる良い環境だと思います。

●ご趣味はなんですか？

旅でしょうか。色々な土地に行って、様々な景色や歴史、そしてその土地の人たちとの触れ合いを楽しむことが好きです。

●今後の抱負をお聞かせください。

高専勤務となり、あと少しで1年が経とうとしていますが、少しでも皆様のお役に立てるように日々精進してまいりますので、よろしくお願いいたします。

新 任 者 紹 介



総務課会計係

まつ だ ゆたか
松田 豊

●ご出身はどちらですか？

山口県防府市です。

●本校にこられる前はどちらに？

山口県警に勤めていました。

●徳山高専の印象は？

緑に囲まれた良い環境だと思います。夜に見える景色も綺麗で、立地条件が最高です。

●ご趣味はなんですか？

体を動かすことが好きで、サッカーと水泳を継続してやっています。

●今後の抱負をお聞かせください。

事務経験がなくまだまだ慣れないことも多いと思いますが、徳山高専のため頑張っていきますのでよろしくお願いします。



学生課教務係

いし だ まさひろ
石田 真裕

●ご出身はどちらですか？

広島県広島市で生まれ、広島市の西隣の廿日市市で育ちました。

●本校にこられる前はどちらに？

宇部市の山口大学医学部で勤務していました。

●徳山高専の印象は？

学生が真面目で明るく、毎日挨拶をしてくれるのがうれしいです。

校舎も新しく綺麗で、とても驚きました。

●ご趣味はなんですか？

基本的にはインドア派ですが、野球やバスケットなどスポーツは全般的に好きです。好きになるとのめりこんでしまいます。

特に大学から始めたボート競技（※競技用の手漕ぎボート）は今でも関わり続けていて、現在、山口県国体チームの強化スタッフの一員として活動しています。

●今後の抱負をお聞かせください。

勉強不足なことも多く、ご迷惑をおかけすることも多々あるかと思いますが、徳山高専のためになるよう、自分らしく貢献していきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。



学生課学生係看護師

せがわ けいこ
瀬川 圭子

●ご出身はどちらですか？

山口市です。

●本校にこられる前はどちらに？

山口で大学生をしていました。

●徳山高専の印象は？

明るく元気な学生が多いと思います。

あと仕事の帰りに坂の上から見える夕焼けの空と海の景色に癒されています。

●ご趣味はなんですか？

旅行です。時間とお金があれば行きたいところがいっぱいあります！

●今後の抱負をお聞かせください。

学校の保健室での勤務は初めてなのでとまどうことも多いですが、日々新鮮な体験をさせていただいています。その中で自分の知識と技術を発揮していけたらいいなと思っています。



平成21年度徳山高専きらめきコンテスト

優 秀

小説 『桜の下の日だまり』
1年2組 澤田 拓実

季節は春。ちょうど今の時期は桜が咲き始める頃だ。しかし、今の私には桜もこの晴れた空も、見ているだけで嫌気が差してくる、憂鬱なものではなかった。

「お姉ちゃん、どうしたの？」

桜の木に寄りかかってなんとなく空を見上げていると、声がかげられた。ゆっくり目を向けると、小さな男の子がこちらを見ている。一人でこんな所に何をしに来ているのだろう。

「私はね……………」

私はここで何をしているのだろう。私はただここにわけも無く来て、無意味な時間を過ごしているだけのような気がする。

「君は何しに来たの？」

だから私はそう尋ねた。男の子は桜を見上げて、「桜を見に来たの。春はいつも来てるから」と答えた。実にありふれた理由だが、私なんかと比べたらましな方だろう。私はすることもなく、ただ好きでもない空を眺めていただけなのだから。

男の子はふと腕時計を見て、それから私の方へ顔を向けた。

「今日は時間だから帰るね。また明日、ここに来てくれる？」

「いいよ。また明日、ここに来るから」

私はなぜかそう答えていた。好きな場所でもないのに、なぜか明日が楽しみになった。

次の日、私はやっぱりあの桜の木の下にいた。どうせ何もすることのない時期だ。春の日差しの下、こうしているのも悪くないかもしれない。

「お姉ちゃん」

男の子は小走りで私の所に駆け寄った。こんな私に笑顔で駆け寄る子なんていただろうか。今までの経験にはないような気がする。

「お姉ちゃん、来てくれたんだ」

「約束だからね」

少し肌寒い。風が私のスカートを揺らし、垂らしていた髪をなびかせる。私は桜の木の根元に腰

を下ろして空を見上げた。今日の空はいつもとそんなに変わらないが、なぜか温かさを感じさせる。「お姉ちゃん、もうお昼だよ」

男の子が言った。少し考え事をしていただけのつもりだったのに、随分と時間が経っていたようだ。

「お昼ご飯にしないとね。どうしようか」

「残念だけど、今日は戻らないと」

男の子は寂しそうに私を見つめてから、私に背を向けた。私は歩いていこうとする男の子に向かって叫んだ。

「明日はお弁当作ってくるからね！」

男の子は私に笑顔を返してくれた。

次の日の朝はなぜか早起きできた。二人分のお弁当を作ると、家を出てあの桜の木の所へと向かう。この日は男の子が先に待っていた。

「今日は約束どおり作ってきたよ」

「ありがとう、お姉ちゃん」

実は他の人のためにお弁当を作ったのは初めてだった。もう昼前だったのでさっそく弁当箱を開ける。男の子は中を見ると、嬉しそうに顔を綻ばせた。桜の下で食べるお弁当はいつもよりおいしいと感じた。

「これ、お姉ちゃんが作ったんだよね？」

「そうよ。おいしい？」

「うん、とってもおいしいよ」

男の子がおいしそうに食べているのを見ていると、私も嬉しかった。お弁当を食べ終わると、私は木にもたれ掛かって、私の膝に頭を乗せて眠る男の子の顔を見つめた。

不思議だった。なぜ私はこんな突然現れた男の子に心を許しているのだろう。

自分にも信じられなかった。ずっと独りで過ごしていた私が、こうも簡単に心を許し一緒にいるのはなぜだろう……………」

「そっか……………」

私は溜め息にも似た呟きを漏らした。そうだ。独りだったから求めていたのだ。ずっと独りだったから、こんな心を許せる相手を求めていた。だから今、私はこうしてられるのだ。私の膝の上で寝息を立てている男の子を、私はそっと抱き締めた。

「お姉ちゃん？」

「もう少しこのままでいさせて。いいでしょ？」

男の子にとって、私はどんな存在なのだろうか。私に心を許しているのだろうか。私に男の子の思っていることは分からないけれど、少しでもこの子の安らぎになってあげたいな、そう思った。

その夜、私は目覚まし時計を早めにセットしてから寝た。もっと男の子と長い間いられるように、もっといろいろなことができるように。私の中で、男の子の存在は日に日に大きくなっていく。

そして、いつかの別れが怖かった。

かつてこんなことは一度もなかった。愛情を知らなかった私には、この春の出会いが初めてのことばかりだった。ずっと孤独だった私には、男の子の存在は温かいものだった。私にとってそれは……

……日だまり……

そう、日だまりのようだった。桜の下の、小さな日だまり……

変わっていく……この世界の何もかもが……そして、私も……

朝、私は朝食を一人で食べながらちらりとデジタル時計を見た。三月二十五日、新学期まであと一週間しかない。

「一週間か……」

正確に日付を表すデジタル時計が、今は少し憎らしかった。

いつもの桜の木の下で男の子を待つ。桜もだいぶ散って、満開とは言えない。春の終わりが感じられた。

「お姉ちゃん」

男の子は私を見つけるとすぐに駆け寄って来た。私はゆっくりと腰を下ろした。男の子も、私の隣にゆっくりと腰を下ろした。

「もう桜も散っちゃうね」

男の子が唐突に言った。なぜか予感はしていた。この言葉を恐れていた。聞きたくなかった。それでも、必然的に聞かなければならない言葉。

「そうだね……」

なんとか言葉を返す。でも、言葉が続かない。言葉を返すのが怖い。

「春も終わっちゃうんだね。そうしたら……」

「やめてっ！」

私は叫んでいた。耐え切れずに、力いっぱい。「君がいなくなったら、私はまた独りになっちゃうの……独りにしないで……」

男の子は優しく私を抱き締めて、頭を撫でてくれた。私は涙を流していた。生まれてから一度も流したことのない涙が、私の頬を伝って落ちていく。

「お姉ちゃん、泣かないで。お姉ちゃんは独りじゃないから。たくさんの人と出会えるから、大丈夫」

男の子の言葉が素直に嬉しかった。純粋な優しさと、本当の愛情がそこにあった。

「もっと一緒にいたかったんだけど、もうお別れだね」

帰り際、男の子が言った。私はもう怖くなかった。

「そういえば、まだ名前聞いてなかったよね。私は……」

「いいよ、言わなくても。僕は普通の男の子、お姉ちゃんはお姉ちゃんのままでいいんだよ」

男の子はそう言って笑った。これ以上ないくらいきれいな笑顔で。つられて私も笑みをこぼしていた。

「また、会えるよね……」

「うん！」

桜の花びらが落ちていく中、二人歩いている。

春が終わりを告げる中、二人歩いている。

誰にも描けない光景がそこにある。

「またね！」

ふたつの長い影、別々の方向に歩いていく。

あとに残るのは桜の舞う道。

続くのは、長い長い道の続き。

でも、きっと大丈夫。

私たちは独りじゃない。

きっと踏み出せる。

長く続く、この道の第一歩を、きっと。

春休み最後の日、私はあの桜の木の下で、男の

子が亡くなったことを聞かされた。

「またねって……………言ったのに……………」

小児ガンだったそうだ。本当なら私と出会えていなかったかもしれないと、男の子の母親が言った。奇跡だったと。あんなに元気な姿は初めてだったと、男の子の父親が言った。

桜の花は散って、葉桜。学校への道を、私はゆっくりと歩いていく。これまでのような憂鬱な感じはしない。独りじゃないことを教えてもらったから。

この春の出会いは私を大きく変えて、あっという間に過ぎ去っていった。桜が咲いて、散っていくように。

来年の桜が咲く頃、もう一度あの桜の木の下へ行こうと思う。その時にはきっと、小さな、でも

暖かい日だまりができてはいるはずだから。男の子に会うことはできないけれど、それでも、私にはあの桜の木の下は大事な場所になったから。

そうしたら、桜の下の日だまりの下で、私は休もう。新しく生まれ変わったこの町で、私の日だまりをつくっていくために。そうして、私たちの日だまりは広がっていくのだ。少しずつ、でも広く、大きく。



入 選

短歌

1年2組 野間 彩花

『思い出』

照りつける 強き日ざしを 気にもせず ただただ遊んだ 幼きころ

あの時を 最後に私は 走り出す 心に刻んだ約束とともに

幼児らの 昼寝の時間に こっそりと プールの水と 光が遊ぶ

さようなら そう言い残し 後にした 中学校との 別れの日に

先輩が 走った成果は 無駄にしない 私がバトンを つなぐ番

『高専生活』

高専の 坂を登るよ 今日もまた なかなか痩せない 今日このごろ

忘れてた テスト返却 テンションが 一気にガタ落ち 現実逃避

居眠りを しようと思った その瞬間 先生こっちに 笑顔で合図

簡単な 問題いつも 前の人 私はいつも はずれもの

今日は雨 ちょっと嬉しい バス通学 けれども中は 密集地帯

佳作

ポスター

1年3組 松村 俊孝



平成21年度きらめきコンテスト 選考経過と講評

図書館長 渡辺勝利

平成21年度きらめきコンテストには8作品の応募がありました。その内訳は、小説・童話部門1編、詩部門2編、短歌部門1編、俳句部門1編、読書感想文部門3編でした。作品を応募いただいた学生の皆さんには、心から感謝いたします。これらすべての作品について、6名の審査員による厳正な審査が行われました。その結果、今年度の大賞は該当する作品がないということになりました。優秀賞には、小説・童話部門に応募された澤田拓実君（1年2組）の『桜の下の日だまり』が選ばれました。入選には短歌部門に応募された野間彩花さん（1年3組）の『思い出』、『高専生活』が選ばれました。また、今年度のポスターを作成いただいた松村俊孝君（1年3組）の作品は佳作に選ばれました。きらめきコンテストの各賞授与は、10月31日の高専祭オープニングで行われ、平野校長から賞状と副賞が授与されました。（写真）

優秀賞を受賞された澤田拓実君の作品『桜の下の日だまり』は、桜の下で出会った少女と幼い男の子との心の交流を描いた作品です。少女の孤独感な心が男の子との出会いによって、少しずつときほぐされ、次第にあたたかく強いものへと変わっていく様子が描かれており、審査委員から高い評価をいただきました。

入賞となった野間彩花さんの短歌『思い出』は、幼児から中学を卒業するまでの思い出を短歌にした作品です。三首目の“こっそりと プールの水と光が遊ぶ”という表現には心惹かれました。同じく短歌『高専生活』は、高専生活の様々なシーンがユーモラスに表現されています。いずれの短歌も情景が想像でき、作者が楽しい高専生活を送っていることが伝わってくる作品でした。

高専在学中の自分を音声や画像だけでなく、文字という形で残してみたいかでしょうか。その作品には、少なからず作者の心が反映されるので、当時の自分を知ることのできる良い材料となります。次年度もきらめきコンテストへの応募をよろしくお願ひします。皆さんの心のこもった作品をお待ちしております。



図書館時間外開館 補助員の感想

■機械電気工学科5年 西尾 萌

私は本が好きで、図書館のアルバイトをしてみたいと思っていたのですが、図書館の司書は資格が必要で、アルバイトはできないと知って残念に思った事があったので、学校で図書館の補助員をできると知って嬉しかったです。日頃の業務も9月の書庫の整理も皆で和やかにしっかりと仕事できて充実したアルバイトができ、いい思い出になりました。

■機械電気工学科5年 清水 朋之

自分は補助員をやるまであまり図書室を利用しなかったのですが、補助員になって利用する回数が増えました。そのとき気づいたのですが、図書館は情報量がとても多いということです。本のほうがインターネットより詳しく書いてあることが多いです。なので、皆さんも課題をするときは、ぜひ図書館を利用してみてください。

■機械電気工学科5年 猪俣 百矢

補助員をされていて気づいたことは、今まで図書館を活用できていなかったということです。今まで、テスト前に勉強しに来るくらいでしたが、図書館には専門書がたくさん揃っていて、調べたりするのにとても便利です。専攻科に進学し、調査しなければならないことがあれば、インターネットにはかり頼らずどんどん図書館を利用したいと思います。

■機械電気工学科5年 植木 栄一郎

私はこの仕事で整理整頓の大切さを実感しました。図書館のような多くの人が使用する場所で乱雑に本が置いてあると、利用者にとって大変使いにくいスペースになってしまいます。そこで私は多くの人に快適に使って貰う為に書架の整理整頓に力を入れました。

本は元にあった所へ返しましょう、誰だってそうするし僕だってそうします。

■機械電気工学科5年 友景 俊作

1年の頃から興味を持っていた図書館の補助員を勤めることができ、とてもうれしかったです。日々

の業務での清掃や図書の整理、夏休みに行った書庫の整理など、大変な仕事もありましたが、良い経験になりました。また、興味ある図書がたくさん蔵書されていることを知り、利用する回数も増えました。みなさんにも是非利用して欲しいと思います。

■機械電気工学科5年 福田 真之

私は図書館時間外開館補助員になって、学生が当然のように使用している図書館の本棚の整理や、学生が使用した机を綺麗にするといった図書館における裏方の仕事の苦勞を知ることが出来ました。初めは大変な仕事だと感じていましたが、今では高専生活でもなかなか出来ない貴重な体験が出来て良かったと感じています。

■情報電子工学科5年 橋本 皓大

今年一年間、図書館で働かせてもらいました。普段図書館を利用する時では入ることができない書庫や多くの本と出会うことができました。また図書館からしか入ることができない学生課の隣に広がる隠し書庫、見たこともない本の山、補助員でないと見ることができない光景でした。仕事自体はこれといって難しいことはありませんし、慣れると楽しいです!!今年途中から日曜日が閉館となり仕事のローテーションが崩れたので少しやりにくかったところはありますが今年一年とても楽しかったです。

■土木建築工学科5年 加藤 摩耶

私は勤務する前まで、ほんの一握りの種類の本にしか興味がなく、図書館にどれだけのものが収容されているのか一切把握していませんでした。しかし、この一年間仕事をこなしていく内に自然に頭に入り、他の用途で使用する際にとっても助かりました。仕事は細かい作業から力仕事まで思っていたより大変でしたが、とても良い経験になりました。



編集後記

高城会（徳山高専同窓会）が30周年を迎え、本号では「同窓会特集」を掲載しました。50代となり貫禄の出てきた1期生やこの春卒業したばかりの初々しい社会人姿の31期生の姿が印象的な号になりました。本号は同窓生の皆様にも送付しています。同窓生の皆様には徳山高専の“今”を、在校生の皆さんには先生や先輩たちの書かれた素晴らしい記事を見ていただきたいと思います。また、ホームページでは30周年記念懇親会の291枚の写真を見ることができそうです。是非ご覧ください。

本年度、専門科目棟西側の耐震補強工事が行われ、2月に完了しました。民主党に政権が交代し、専門棟東側の改修工事は先送りとなりましたが、新年度から新しくなった校舎で頑張る学生の姿が見られるものと考えています。今後も学生・保護者や同窓生の方々と徳山高専との橋渡しができるよう努めたいと思います。

最後に、年末年始のお忙しい中、本号に執筆いただいた皆様、執筆依頼から校正まで協力してくださった皆様に改めてお礼を申し上げます。(F.N)



本校の「設計情報工学」プログラムは、日本技術者教育認定機構（JABEE）からの認定を受けています。



本校は、平成18年度に独立行政法人大学評価・学位授与機構の認証評価を受け、認証評価基準を満たしていると認定されました。

徳山工業高等専門学校 Tokuyama College of Technology

徳山高専だより No.63

発行 総合企画室
所在地 〒745-8585 山口県周南市学園台
TEL (0834) 29-6200 (代表)
FAX (0834) 28-7605 (代表)
印刷 大村印刷(株)
発行日 2010年(平成22年)3月10日
URL <http://www.tokuyama.ac.jp/>

Tokuyama College of Technology
